



第144号

# Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第122回 WFP 作品展(再掲)
- ・ Fairy of the Forest #63(締切延長)
- ・ 推理将棋第129回出題

結果発表 45

- ・ 第121回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第127回解答
- ・ 臨時① 神無太郎の氾濫 解答編

読み物

- ・ レトロプロブレム入門(6) by 高坂研
- ・ 第6回 神無太郎の氾濫 出題編
- ・ 続・やさしい双裸玉 Imitator【蔵出し編】 by 占魚亭



2020/6

## はじめに

---



### コロナ禍

コロナの話題を巻頭で書いて4ヶ月目ですが、やっと一段落と言った所でしょうか。勿論まだまだ第2派、第3派が来る可能性が高く予断は許せません。

とはいえ、とりあえず19日より、他県への移動も可能となり、松山市の道後温泉本館や松山城も再開されました。各都道府県で違うと思いますが、愛媛県では県内のホテル、旅館に宿泊すれば（旅行代理店を通して）5千円の補助が出る施策も発表され、これはちょっと行ってみようかなという気になりますね。徐々に経済が回復していけばいいですね。

プロ野球も19日に開幕しました。当初は無観客試合でやるようですが、何はともあれよかったです。何かの記事で、「1970年代のパ・リーグはもともと無観客みたいなものだった・・・」にはちょっと笑ってしまいました。今のパ・リーグの状況を見ていると隔世の感がありますね。これも積み重ねた努力の結果です。

私事で言えば、7月12日にバドミントンの試合が予定されている（今年は新居浜市で開催）今年度の大会はここまで全て中止なのでどうなるかはまだ不確定ですが。勝てばその本戦の四国大会が9月27日ということで、何年ぶりか詰将棋全国大会に日程と外れました。今年は参加出来る可能性が出てきましたが果たしてどうなるか？私もいい年なのでこれからそんなにチャンスがないと思うので行きたいですね。

余談ですが、「コロナ禍（ころなか）」書くのは良いけど会話では使い難い言葉ですね。

### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第144号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

### 協力いただいている方々のHPアドレス

\*ご協力感謝します

#### 妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

#### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

#### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

#### Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

#### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

#### フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

#### 占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

# 第122回WFP作品展(再掲)

担当：神無七郎

今月のWFP作品展の新規出題はお休みです。本稿では第122回WFP作品展の出題稿を再度掲載します。

## 〔第122回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第122回の出題は10題。複数解を求める作品を含むので実質12題です。今回登場する作者は神無太郎氏、上田吉一氏、上谷直希氏、真T氏、青木裕一氏、馬屋原剛氏、変寝夢氏の7名です。透明駒作品が多いのは珍しくなくなりましたが、今回は最悪詰が多いのが特徴的です。

また、今回はいつもより解答募集期間が一月月長くなっています。腕に自信のある方は、ぜひ全題正解を狙ってください。

**122-1**は神無太郎氏の中立駒&Imitator作品。前回出題分と同時に投稿いただいた作なので、それらと共通する要素があります。第120回の作品も参考になると思います。

**122-2**は上田吉一氏のPao(包)を使った短編。包の持つある性質をクローズアップした作品と言えるでしょう。その性質は何でしょう？

**122-3**と**122-4**は上谷直希氏の「禁欲」2題。

**122-3**は「最善」指定がないので、攻方最短は義務化されていません。それでも、余詰はないはずですが。**122-4**は「禁欲」と「透明駒」の組み合わせ。協力白玉詰なのに攻方玉がありませんが、これは攻方の透明駒の1つが玉だということです。また、受方の透明駒が大量にあります。これにはもちろん意味があります。なお、「禁欲」と「透明駒」の組み合わせは初めてなので、作者から投稿作の一つを例題として使って良いとの申し出をいただきました。解答は本稿の末尾に掲載しますので、まずはこの例題で肩慣らしをしてください。

**122-5**と**122-6**は真T氏の最悪詰2題。**122-6**は「受先」なので、初手の選択が重要です。

**122-7**は青木裕一氏の最悪詰。余詰防止のため受方持駒制限があるので、解きやすくなっていると思います。

**122-8**と**122-9**は馬屋原剛氏の透明駒作品。どちらもルールは「協力白玉詰」です。**122-8**は2解問題なので、なるべく両方の解を求めてください。**122-9**には受方の玉がありませんが、これは誤植ではありません。受方の2枚の透明

〔例題〕上谷直希氏作

禁欲最善詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
	角								二
									三
									四
									五
									六
							歩		七
									八
									九

持駒 金

※透明駒:攻方0枚、受方1枚

【最善詰】攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。

駒のうち、1枚が玉ということです。

**122-10**にも玉がありませんが、こちらも誤植ではありません。変寝夢氏による「リパブリカン」作品です。特徴は中立駒を使用していること。詰めにくい中立駒でどうやって詰めるかを考えると早く解けると思います。「リパブリカン」では玉は最終手で出現するので、もちろん攻方王手義務はありません。本局も2解問題なので、なるべく両方の解を求めてください。

(※追記) **122-10**には2つの解の一方に余詰がありました。不詰ではないので解答募集は継続し、結果稿で修正図を紹介します。

## 解答要項

第122回分解答締切:2020年8月15日(土)

宛先: [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

## 作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載しますが、投稿作が一回の出題数(12題)を越えた場合、出題時期を調整させていただきます。

宛先は解答と同じ [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済み

なら出力結果のファイル添付を推奨します。

### WFP 作品展：今後の予定

7月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、6月号の新規出題と7月の結果稿はお休みさせていただきます。今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	6月	7月	8月
第122回	再掲	再掲	結果
第123回		出題	再掲
第124回			出題

### ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf>)があるので、それも参考にしてください。

#### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

#### 【中立駒】（「**中**」あるいは「**n**駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に **n** を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。**手番を問わず**、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも **自玉への王手は反則**。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

#### 【Imitator】（**■**または**I**）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この **Imitator** が駒を飛び越えた

り、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

（補足）

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・**Imitator** は元の駒と同時に動く

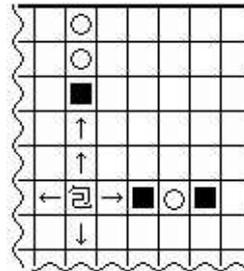
→参照：WFP75号「Imitatorの紹介」

#### 【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

#### 【Pao】（包）

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。



（**■**は敵か味方の駒。  
○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。）

（補足）

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。
- ・成ることはできない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。

#### 【禁欲】

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

#### 【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」

#### 【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

（補足）

- ・「詰める側」と「詰みを防ぐ側」が通常とは逆になっている。このため用語も逆になっており、「紛れ」を受方に、「変化」を攻方に使う。

#### 【受先】

受方から指し始める。

#### 【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
  - 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
  - 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。
- 参照：WFP92号「リパブリカン詰の紹介」



<第 122 回>解答締切:2020年8月15日(土)

■ 122-1 神無太郎氏作

協力自玉詰 6手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一		■								
二								王		
三										
四										
五										
六										
七										
八										
九									王	

持駒 n飛

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 122-2 上田吉一氏作

協力詰 5手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四										
五					包					
六										
七					王		包			
八										
九					王				龍	

持駒 なし

※包:Pao

■ 122-3 上谷直希氏作

禁欲詰 15手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四										
五										
六									馬	
七										
八										
九										

持駒 角

■ 122-4 上谷直希氏作

禁欲協力白玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
						王	香		七
							香		八
									九

持駒 なし

※透明駒:攻方3枚、受方12枚

■ 122-5 真T氏作

最悪詰 15手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								皇	一
						王		王	二
									三
							歩	角	四
					角				五
									六
						飛		香	七
									八
									九

持駒 なし

■ 122-6 真T氏作

最悪詰 26手 (受先)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
歩	王					飛			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩6

■ 122-7 青木裕一氏作

最悪詰 47手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						飛	飛	角	三
									四
					飛			王	五
						飛		飛	六
							王		七
							香	桂	八
						角	金		九

攻方持駒 歩6

受方持駒 なし

■ 122-8 馬屋原剛氏作

協力白玉詰 4手 (2解)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
						王			七
									八
									九
		馬		王					九

持駒 角

※透明駒:攻方0枚、受方1枚

■ 122-9 馬屋原剛氏作

協力白玉詰 4手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
						王	王		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

※透明駒:攻方1枚、受方2枚

■ 122-10 変寝夢氏作

リパブリカン協力詰 3手 (2解)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
			香						四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 n角  
受方持駒 なし  
※角と香は中立駒

以上



【例題解答】 上谷直希氏作

禁欲最善詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
	角								二
									三
									四
									五
									六
							歩		七
									八
									九

持駒 金  
※透明駒:攻方0枚、受方1枚

【解答】 (※判明した透明駒を括弧内に記述)

28角生 - X 26金 (16玉) まで 3手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
							金	玉	六
							歩		七
							角		八
									九

持駒 なし

【紛れ】 初手 28角成は、同 X (=玉) で不詰

【作者のコメント】

禁欲と透明駒の組み合わせは多分初めてなので例題級を。

初手角生とすれば玉位置がどこであろうと角が取り返される心配はありません。

なお、禁欲詰ではなく禁欲最善詰なのは余詰対策 (いくらでも手順が挙げられるので手順は省略)。盤面の自由度が高い構図の場合、禁欲ルールは余詰の宝庫といえるでしょうね。

## 【解説】

盤上に玉がありませんが、これは誤植ではありません。受方の1枚の透明駒は玉だということです。駒の種類は判明していますが、位置が分からないので透明性は失っていません。

初手の選択肢はかなり広く、王手にならない手を探す方が難しいくらいです。敢えて王手にならない着手を挙げると、「19角生」「91角生」「81金」の3つです。

一方、いきなり玉位置を判明させてしまう着手もいくつかあります。例えば初手26歩とすると、これが王手であることから25玉が確定します。ただ、そうすると2手目どこに玉が逃げても詰みません。受方が協力しても詰まないのですから、「最善詰」だとなおさらです。詰みやすい形になるか、詰んだ状態で玉位置を判明させるのが、対抗系（協力系でない）ルールで透明玉を詰めるときのコツです。

本局ではそれを初手28角生と3手目26金の組み合わせで実現します。初手28角生が王手であることから、透明玉は17か39にいたことになりませんが、3手目26金により、17玉が16へ逃げたことが確定するわけです。

同じようでも初手28角成とすると、2手目に同X(=玉)とされます。「実は18(あるいは29)に玉がいたので、禁欲だけ取るしかなかった」と主張されてしまうわけですね。対抗系ルールでは常に変化に気を配らねばなりません。

なお、本局に「最善」指定がある理由は、長手数之余詰を防ぐためです。これがないと、以下のような余詰が成立します。

19角成 - X 18馬(17玉) 16玉 26金 まで  
72金 - X 93角成(92玉) 91玉 82金 まで

:

他にも無数の長手数の詰手順が存在します。それらをすべて潰すことは、不可能でないにしても、あまり建設的な結果を生まないでしょう。禁欲詰は余詰を生じやすいルールなので、必要ならば「最善」指定で攻方最短を義務化し、狙いをスッキリと表現することが望ましいと思います。

以上

## 「第53回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第53回神無一族の氾濫」への参加を募ります。今回のお題は「7」です。

「7」は詰将棋とゆかりの深い数字です。

玉以外の駒が七種あることから「七種合」や「七色図式」等の分野が生まれ、盤の大きさが9×9であることから「七連続合」等の主題が生まれました。昨年刊行された「Limit7」では、「使用駒数7枚」が簡素図式の指標とされていましたね。上記以外でも、7手詰、七の字の曲詰等、「7」に関係していればどんな作品でも構いません。何らかの点で「7」にちなんだ作品をお寄せください。

また、1題通常の協力詰（ばか詰）を募集します。こちらは必ずしもお題とは関係なくても構いませんが、お題に合った作品を優先して採用したいと思います。

蛇足ながら、「氾濫53」の出題は詰パラ12月号、即ち通巻777号の予定です（実はこれが今回このお題が選ばれた理由です）。

作品要件	7にちなんだ作品
募集締切	2020年10月18日（日）
募集作品数	4 + 1（協力詰枠）
送り先	神無七郎（k7ro.ts@gmail.com） 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1人何作でも投稿可。採否は10月25日までに通知します。



# Fairy of the Forest #63 出題 (再掲)

- 2020年03月20日：課題発表：(協力詰)  
「自由課題」
- 2020年05月15日：投稿締切
- 2020年05月20日：出題
- 2020年07月15日：解答締切 (延長)
- 2020年07月20日：結果発表

## ■ 出題

今回は5題と、近頃では最も多い出題数となりました。作者の皆様には感謝いたします。特に、初投稿で2題も出品いただいた馬屋原さんには今後のご投稿も期待したいところです。さて、作品の方は短編から(短めの)長編まで、バランスがとれています。楽しんでご解答いただけたらと思う次第です。03.04は受方持駒制限にご注意ください。

(解答先)  
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

## ■ 63-01 馬屋原剛

協力詰 7手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
																			三
																			四
																			五
																			六
																			七
																			八
																			九

持駒 桂

## ■ 63-02 馬屋原剛 協力詰 11手

協力詰 11手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
																			三
															銀				四
																	歩	歩	五
																歩	王	銀	六
																	銀	桂	七
																		歩	八
																		銀	九

持駒 桂歩

## ■ 63-03 たくぼん

協力詰 53手

持駒 なし

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																歩	龍	玉	一
																	入		二
																			三
																			四
																		桂	五
															香		金		六
															歩			歩	七
																	王	入	八
														桂	入				九

持駒 なし

■ 63-04 青木裕一

協力詰 63手

持駒 なし

										一
										二
										三
						銀				四
皇	歩				と		歩	皇		五
							飛			六
								王		七
飛					桂		歩	王		八
玉						香				九

持駒 なし

■ 63-05 小林看空

協力詰 77手

										一
										二
										三
										四
										五
金	銀	金	飛	飛	銀	玉	銀	金		六
香		香	金	香	桂	桂		香		七
	角		銀			と	と			八
		桂	王	桂	又	歩	と			九

持駒 角歩2



お詫び

担当者多忙の為、解答期間を1ヶ月延長し7月15日（水）までとします。結果を楽しみにしていた皆様申し訳ありません。

## 推理将棋第129回出題

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第129回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2020年7月10日までに TETSU まで (omochabako@nifty.com) メール の 題名は「推理将棋第129回解答」でお願いします。

### 推理将棋第129回出題 担当 Pontamon

初級は諏訪冬葉さんの8手、中級はNAOさんの10手、上級はミニベロさんの11手です。

今月は担当作はありません。作品投稿、ありがとうございます。

#### 《作品募集》

以前は9月辺りで94問題が出題されました。9月出題では9手詰特集を組みたいと思います。2桁手数の問題よりは難易度が下がると思っていますので5~6題を出題できればと考えています。作品をふるって投稿していただければ幸いです。

(94問題、93問題、92問題でも通常の9手詰問題でも結構です。)

#### ■本出題

##### 129-1 初級 諏訪冬葉作

王手飛車は珍しい？ 8手

初心者向けの8手の作品。中・上級者はサクッと解きましょう。

##### 129-2 中級 NAO作

隅と端の攻防 10手

19地点の着手は先手か後手か？その駒は何かを推理しましょう。

##### 129-3 上級 ミニベロ作

誤解？ 11手

今月は空き王手。両王手は空き王手の一種なので似ている手筋があるかも。

##### 129-1 初級 諏訪冬葉作

王手飛車は珍しい？ 8手

「8手で勝ったんだって？」

「うん。最終手は△39龍」

「龍でとどめってかっこいいよね」

「ちなみに玉は一步も動かなかった」

「8手ならそういうこともあるよね」

「さらに珍しいことに王手飛車取りの手がなかった」

「・・・それって珍しいの？」

(条件)

- ・8手で詰んだ
- ・最終手は△39龍
- ・玉は動かなかった
- ・王手飛車取りの手はなかった

##### 129-2 中級 NAO作

隅と端の攻防 10手

「さっきの将棋、10手目の初王手で詰んだって？」

「19地点の手より後に、1筋の手を指したよ」

「なるほど。隅と端の攻防で勝負が決した訳か」

(条件)

- ・10手目の初王手で詰んだ
- ・19地点への着手より後に1筋に着手した

##### 129-3 上級 ミニベロ作

誤解？ 11手

「誤解したんだって？」

「そう、全部で5回ずつ、端の手と不成りがあったの」

「11手目の開き王手で詰んだやつだろ」

「そう、難しかったね」

「大丈夫。不正解でもおもちゃ箱の推理将棋は景品当るから」

「何か誤解しているみたい」

「ええっ、不正解だともらえないの」

「それも誤解だよ。そもそも僕は正解してるし」

(条件)

- ・11手目の開き王手で詰んだ
  - ・端の手と不成りが5回ずつあった ※
- ※端の手と不成りは、一つの手で重複している場合があります

# 第121回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第121回WFP作品展の結果を報告します。  
 今回の出題は全12題。解答者数10名。全題正解者なし。解答の内訳は以下の通りです。

## 〔第121回WFP作品展成績〕（敬称略）

○:正解・余詰解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
真T	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
たくぼん	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10
はなさかしろう	-	-	○	○	○	-	-	○	-	○	○	○	7
青木裕一	-	-	-	-	○	○	○	○	○	-	○	○	7
占魚亭	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	×	○	6
変寝夢	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-	○	○	5
一乗谷酔象	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	○	4
忍者うどん	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	3
k z	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	3
暇人EX	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	1

解答者数が徐々に2桁に乗り、全体の解答成績も上々。Imitatorが鬼門なのは相変わらず、**121-2**は作者以外の正解者が出ませんでした。解答初参加は忍者うどん氏。**121-5**と**121-6**の最悪詰や**121-9**の安南詰という対抗系ルールで力を発揮されました。

出題作品は、透明駒や千日手利用ルールなど、機械検討ができない作品が5題あったのですが、余詰指摘等はなく、無事結果稿を迎えることができました。作家陣の努力の賜物だと思います。

### ■ 121-1 神無太郎氏作（正解1名！）

協力自玉詰6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
										二
										三
										四
										五
■										六
			王							七
										八
										九

持駒 n飛

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

## 【ルール】

### •協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

### •Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

（補足）

•駒を打ったときは動かない。

•Imitatorは元の駒と同時に動く

→参照：WFP75号「Imitatorの紹介」

### •中立駒（「區」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横にnを付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

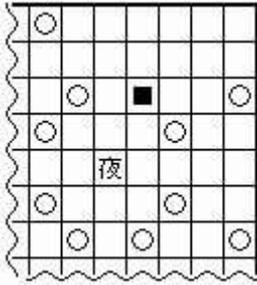
- 1)中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
  - 2)中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
  - 3)中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
  - 4)中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
  - 5)中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
  - 6)中立駒は行き所ない駒にならない。
  - 7)中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。
- 参照：WFP61号「中立駒の紹介」

## 【解答】

87n飛 77n角 22n角成[I41] 21n香

12n馬[I31] 29n香成[I39] まで6手



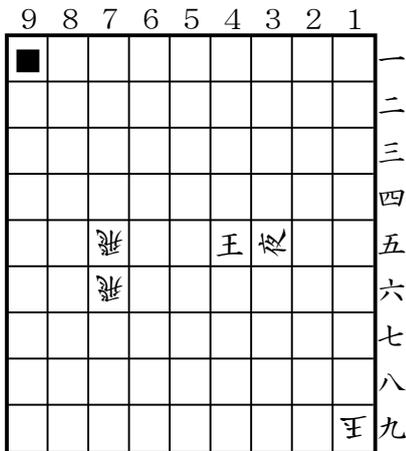


(○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。)

【解答】

38n 夜 14n 夜[I71] 35n 夜[I92] 76 飛  
45 王[I91] 75 飛打 まで 6 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント及び解説】

中立 Nightrider と併せてみました。

【解説】

本局は1手でできそうなことを3手掛けて行う不思議な導入部から始まります。

その目的は Imitator の位置調整。

Imitator を無視すれば初手 35n 夜としても同じですが、2手余分に掛けることで Imitator を 92 に運ぶことができました。

ここから Imitator 作品らしい遠隔操作手順が始まります。王手をする 35n 夜と王手をされる 19 玉を固定したまま、壁駒を発生させたり Imitator を動かしたりして王手の無効化・有効化を繰り返します。

詰上りは Imitator 作品としては標準的なもの。Imitator を盤隅に持ってきて詰みやすい状態を作り、壁として発生させた飛2枚で自玉を詰めます。

以上のように、導入部で Imitator を移動させるためだけに3手費やすことを除けば、基本に

忠実な作品なのですが、中立 NightRider という見慣れない駒と、紛れの多さに白旗を揚げた解答者が多かったようです。正解者は作者のみという結果になってしまいました。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

もう少し大きな動きを期待していたが。

たくぼんさん (※無解)

フェアリー駒、中立駒、Imitator が一緒になるともう訳が分からないですね。

占魚亭さん

120-4 同様ぱつとしませんが、通常盤で Imitator と Nightrider を併用するとこういう感じになってしまいます。拡大盤や特殊盤でやるのがベスト、というのが現時点での結論。

☆チェスプロブレムは基本的に短編の世界なので、変則駒や変則ルールが多くは紛れを増やす方向で設計されています。それが面白い手順を生むこともありますが、解答者には大きな負担になります。作品の趣旨によっては、余分なフェアリー要素を減らす配慮も必要だと思います。





■ 121-3 上田吉一氏作 (正解 5 名)

協力自玉詰 8 手

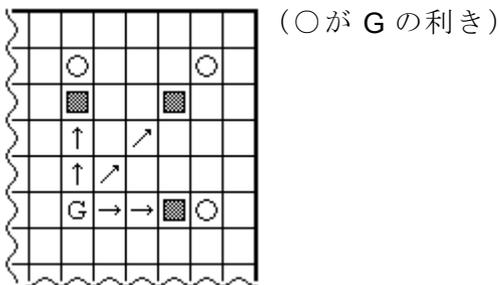
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			王						一
									二
			糸						三
									四
							龍	王	五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 G  
受方持駒 残り全部 + G4  
※G:Grasshopper

【ルール】

● Grasshopper (G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



【解答】

95G 85G 75G 65G打 55G 45G打  
35G 21龍 まで 8手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			王				龍		一
									二
			糸						三
									四
	王	王	王	G		王			五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

盤と駒で作られたピンホールカメラ。

63 歩という小さな穴を通して、3つのGが、逆向きに小さな像を結びます。

まずは初形に注目。受方持駒に Grasshopper (G) が追加されていることから、G合の登場が予想されますね。

作意はその期待を裏切りません。Gの最遠打に対しG合と攻方Gの跳躍が繰り返され、飛び石のように3つの受方Gが残ります。各Gの潜在的な利き筋の焦点には 63 歩が存在し、52・62・72の3箇所には 85G・65G・45Gの利きが生まれます。本来の意味とは違いますが、63歩は「焦点の歩」と呼びたくなりますね。

こうして、攻方玉の二段目への退路をなくしておいて、最後は龍の開き応手で詰めます。主題が明快で多くの解答者が楽しめる作品でした。

なお、25龍は飛にしても完全です。もしかしたら最初は上下逆の構図で作っていて、非限定防止のため龍にしたのかもしれない…などと想像を巡らせてしまいます。

【短評】

真Tさん

63歩1枚で3つ利かせるのがうまい。

変寝夢さん (※無解)

合が全部Gとは思いつきにくいですよ。

☆現在は変寝夢氏の解答を無解扱いしていますが、上田氏の作品は変寝夢氏に中継して貰っているのです、作者本人ではなくとも、作者

に準ずるものとして正解扱いすべきかもしれませんが、こういう投稿形態は想定していなかったもので、これは暫定的な措置です。

**はなさかしろうさん**

焦点の 63 に置かれた歩が印象的。  
それにしてもグラスホッパーは不思議な駒ですね。どんな経緯でこんな駒が誕生したんだろう？

☆考案者は T.R.Dawson さんだそうです。この駒が生まれた経緯は知りません。中国象棋の包やチェッカーとの共通性が感じられるので、その影響があるかもしれませんね。

**たくぼんさん**

詰上り 2 段目を抑えている 3 枚の G がきれい。

**占魚亭さん**

Grasshopper で退路に睨みを利かす。

■ 121-4 上田吉一氏作 (正解 5 名)

協力自玉詰 8 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
			夜					飛		二
										三
								夜		四
										五
										六
				王						七
										八
										九

攻方持駒 G  
受方持駒 残り全部+夜4  
※夜:Nightrider  
G:Grasshopper

【解答】

99G 88 夜打 77G 66 夜打 55G 44 夜打  
33G 同夜 まで 8 手

(詰上り)

										王	一
										飛	二
									夜		三
								夜	夜		四
											五
				夜							六
								王			七
											八
											九

持駒 なし

【解説】

「四桂の宣告」という有名な作品があります。最下段にある玉を桂だけで (成桂を使わずに) 詰めるには、桂が 4 枚必要です。しかし中段玉はそうはいきません。中段玉を桂だけで詰めるには桂が 6 枚必要です。あいにく桂は 4 枚しかないので普通詰将棋で「六桂詰」は作れません。

では Knight (騎) ならどうでしょう？

この場合は 5 枚で可能です。騎は桂と違って前以外にも利くので、枚数は桂より 1 枚少なくて済みます。

NightRider (夜) でも必要枚数は 5 枚です。

しかし、NightRider には遠くから睨みを利かせることができるという騎にはない性質があります。この性質を活かせば中段玉を詰ませるための NightRider を“ほぼすべて”斜めに並べることができます。

以上は作る立場から見た話ですが、解く立場から見ても NightRider の連続合は予想し易いでしょう。受方持駒に NightRider が追加されていることから、前局と同様 Grasshopper (G) の最遠打に NightRider を合駒させながら G がピョンピョン跳ねていく姿が想像できます。

作意ではその期待通り NightRider の連続合が登場し、3 枚の NightRider が飛び石状に配置されます。そして、最後は 33G を 52 夜で取り、4 枚目の NightRider が参戦。見事に中段玉を仕留めます。「六桂詰」の NightRider 版、「五夜詰」の完成です。

ただ、すべての NightRider を対角線上に並べることはできません。致し方ないことですが、24 夜だけが対角線上から外れています。詰将棋の世界では、すべてが上手く行くということは

稀なのです。

なお、22 飛は飛を品切れにするための配置。仮にこれを 22 歩に変えると、合駒が「飛飛香」でも良くなってしまいます。最初から最後まで不動の 22 飛ですが、単なる跳躍台ではなく、そこに居ることで余詰を防いでいたのです。

【短評】

真Tさん

夜がいっぱいで利きがよく分からなくなります。

k zさん

苦労しました。最終手を飛移動と思い込んでしまいました。しかし、最終 52 飛だと 55G で防がれる。24 夜を動かして最終 27 飛だと 48 と 66 が押さえられない。55G、21 飛、51G から最終 27 飛も同じ。55〇、44G、12 飛、14G、52 飛…55〇が邪魔で王手にならない。結局、盤駒を持ち出してやっと解けました。

変寝夢さん (※無解)

今度は合が全部夜なんだろうと思った人もいたのでは？

はなさかしろうさん

盤面中央の玉を夜だけで詰ますには騎でも夜でも 5 枚必要なんですね。88 飛、66 飛、44 香でも良さそうですが飛が足りませんでした。

たくぼんさん

エクセルでセルに色をつけて利きを確認しました。手順は予想通りでした。

占魚亭さん

連携した Nightrider は強い。

■ 121-5 真T氏作 (正解 8 名)

最悪詰 15手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
						香			二
				王		銀			三
		角	香						四
									五
				桂					六
									七
									八
					飛				九

持駒 香4

【ルール】

•最悪詰

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

(補足)

・「詰める側」と「詰みを防ぐ側」が通常とは逆になっている。このため用語も逆になっており、「紛れ」を受方に、「変化」を攻方に使う。

【解答】

43 銀生 44 玉 48 香 同飛生 47 香 同飛生 46 香 同飛生 45 香 同飛 34 銀成 54 玉 44 全 同飛 53 角成 まで 15 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
				馬		香			二
				王	飛				三
				香					四
									五
				桂					六
									七
									八
									九

持駒 なし

【主な紛れ】

・ 4 手目 45 歩合は 34 銀成、54 玉、44 成銀、同玉、53 角成以下逃れ。

【作者のコメント】

狙いは持駒 4 香連捨。

普通詰では結構大変ですが、最悪詰では持駒消費の意味づけで簡単に可能です。

【解説】

作者のコメントにもあるように、本局の主題はずばり「四香連捨」。普通は「四香連打」と呼びますが、狭義の「四香連打」であることを強調するため、「四香連捨」と表現したのでしょう。

もちろんこれは単に香を連続で捨てるという意味ではありません。「連捨」を「〇〇香 同玉」で実現するのは容易ですし、香を使う意味が希薄になってしまいます。

香を玉以外の駒に取らせ、直線状に伸びる香の働きを強調。連打を省略できない意味付けを考え、それが成立する特殊な状況を創り出す——これが狭義の「四香連打」であり、作家の挑戦意欲を掻き立てる所以です。

協力系のルールでは「四香連打」は難しいものではありません。受方の駒を都合の良い場所に呼び出す意味付けで簡単に作れてしまいます。創作が困難になるのは対抗系のルールです。

普通詰将棋でも「四香連打」は決して容易ではありませんが、難しいからこそ挑戦者も多く、「四香連打」はいくつも作られています。最も古い例は 90 年以上前に遡ります。

【参考図】 四香連打の一号局

酒井桂史 作  
詰将棋 29手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				飛					一
		歩							二
			馬			銀	と		三
馬			ス			玉			四
		金							五
						歩			六
								桂	七
角					翼				八
				金	桂				九

持駒 桂香4

(将棋月報、1927年6月号、  
「酒井桂史作品集」第61番)

43 角成 同玉 47 香 同龍 46 香 同龍  
45 香 同龍 44 香 同龍 41 飛成 53 玉

44 銀成 62 玉 53 全 同玉 65 桂 同と  
43 飛 62 玉 61 龍 同玉 63 飛成 51 玉  
52 銀 42 玉 43 龍 31 玉 32 龍 まで 29 手

(※担当注：21 手目 62 銀や 23 手目 33 と、33 銀成等、現在の基準では余詰とみなされる大きなキズがある)

その「四香連打」ですが、最悪詰では意外にも前例がありません。最悪詰は攻方がなるべく詰まない手を選ぶルールなので、「延命」を意味付けにすれば簡単に実現できそうですが、連打する駒が香であるために、問題が一つ生じるのです。それについては後述するとして、まずは作意を見てみましょう。

攻方は 53 角成とすると一発で詰めてしまうので、できるだけそれを先延ばししなければいけません。香の連打も、34 銀成からの銀の押し売りも 53 角成を避けるための手段です。

逆に受方は 53 角成で詰む形を目指します。

香の連打に対し飛を不成で取り、最後の 44 成銀に対し「同龍」ではなく「同飛」とできるようにしておくのがポイント。これで 53 角成によって詰む結末が確定しました。44 成銀をうっかり「同玉」とさえしなければ良いのです。

作意はこれで分かりましたが、先に述べた、最悪詰で四香連捨を実現しようとする場合の問題点について説明しましょう。

それは「合駒」です。

受方は香を 4 枚取る代わりに、玉の近くに合駒をして連打を妨害できる可能性があります。攻方がこれを取ったら、収束に短絡して早詰にしようという狙いです。

これに備えた対策が銀の配置。

この配置は「主な紛れ」に記したように、受方が合駒したら 34 銀成で逃れるのが狙いです。歩合など横に利かない合駒なら成銀を押し売りして逃れ。金や飛のような横に利く合駒なら同香と取り、攻方がその強力な駒を利用して不詰に持ち込むことができるようになっています。

対処の難しい問題を、こんなさりげない方法で解決したのは作者の腕前。冒頭 2 手でこの銀を「43 銀生」と活用し、還元玉で仕上げることにも役立っています。こうした作り方は最悪詰を熟知し、創作経験を積まないといえることで



(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				王		歩	香		二
							香	銀	三
					馬	王	歩	歩	四
					歩		歩		五
					歩				六
									七
									八
									九

持駒 なし

【主な変化】

- ・初手 38 飛は 36 香、同飛、同飛、44 金、35 玉、34 金、同玉、35 香、同飛、44 角成まで 11 手。
  - ・9 手目 26 桂は 33 玉、73 飛、43 合、同飛まで 13 手。
  - ・15 手目 27 桂は 26 玉、38 桂、27 玉、39 桂、16 玉、28 桂、15 玉、27 桂まで 23 手。
- (この変化で詰ますために桂を 4 枚渡します。)

【主な紛れ】

- ・6 手目 44 歩は同飛、35 玉、34 飛、同玉、35 歩以下逃れ。

【作者のコメント】

狙いは持駒 4 桂連捨。普通詰では不可能ですが、最悪詰では持駒消費の意味づけで簡単に可能です。と思ったら、既に作例がありました。

【参考図】 最悪詰の 4 桂連捨

たくぼん 作  
最悪詰 9 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								銀	三
									四
						皇	王	皇	五
						歩	歩	歩	六
						歩			七
									八
									九

持駒 金桂4

(たくぼんの解図日記,2007年3月24日)

18 桂 同龍 38 桂 同龍 18 桂 同龍  
38 桂 同龍 25 金 まで 9 手

仕方がない(?)ので連打する桂を合駒で入手することにしました。

早く詰むように受けるはずの受方が持駒消費に使われる桂を連合で攻方に渡すという矛盾感が面白いと思います。

【解説】

最悪詰では四香連捨の前例はありませんでしたが、四桂連捨には前例があります。合駒を考慮する必要がないので、香より桂の方が作りやすいからです。

そこで作者が考えた工夫が四桂連捨の前に四桂連合を入れることです。

でもちょっと待ってください。

最悪詰では受方は早く詰む手順を選ぶのに、なぜ「四連合」をするのでしょうか？

その意味は 15 手目 34 飛の代わりに 27 桂とすることを読むと分かります。この変化は桂が 4 枚ないと詰まない(厳密に言うと、まったく詰まないわけではなく、手数が余分に掛かる)ので、それに備えて必要な枚数の桂を渡しておくのです。七段目から九段目に駒を置かずにこの変化を成立させたのは見事です。

連合物は通常、連合の仕組みを考えてから、得た持駒を消化する手段を考えるのが普通です。しかし、真T氏のこの作品ではその創作過程が逆になっています。最悪詰に精通していないと、できない作り方です。前局と共に作者の確かな手腕を感じさせる作品でした。

ここで少し余談です。

普通詰将棋でも「四桂連合」は結構作られています。ただ、合駒で得た桂を「四桂連捨」で処理する作品はありません。持駒桂 4 枚だと、途中で必ず「XX 桂打 同X」以外の手を挟まねばならないからです。桂 1 枚を置駒にして、「持駒 3 桂打捨」「置駒桂捨」を連続で行うのさえ難しいでしょう。

一方、人気があるのは合駒で得た桂を使って「四桂詰」にする構成です。四桂連合から四桂詰を実現した作品で最も有名な作品をご覧ください。

【参考図】四桂連合から四桂詰

山田修司 作  
詰将棋 63手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		皇		と					一
	銀	歩							二
香				香					三
歩	香			歩					四
	歩	馬		ス	銀			飛	五
	金		歩	歩					六
		ス						ス	七
王		銀	金						八
ス									九

持駒 角 銀

(近代将棋,1963年11月,塚田賞)

言わずと知れた名作なので、解答は省略します。四桂連合の意味付けの明快さ、四桂詰で仕上げた構成には文句の付け所がありませんね。

【短評】

真Tさん

2筋の形がひどいですが、ただの壁駒と思えばそうでもない。  
と思うのは親の欲目でしょうか。

忍者うどんさん

これも飛と玉の位置関係から4連合を予想(楽しんでないなあ)。桂を打つと15地点で早く詰む意味付けに感心。両題とも、この手順を限定させる作図技術が素晴らしい。

青木裕一さん

桂を渡しても、本手順では使わないところが面白い。

たくぼんさん

飛を横に動かすのかと思っていましたが縦でなおかつ桂を4連合する意味付けが素晴らしい。さすが真Tさんといか言いようがありません。

■ 121-7 高坂研氏作 (正解7名)

キルケ協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
	飛								四
									五
									六
			王						七
									八
									九

持駒 金 銀

※透明駒：攻方1枚、受方0枚

【ルール】

•透明駒

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」

•キルケ

駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 成駒は生駒になって戻る。
- 2) 戻り位置が埋まっていたり、二歩になったりする場合は戻れない。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 金銀桂香(成駒も含む)が5筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。

【解答】(※判明した透明駒を括弧内に記述)

78 銀 同玉 (X=79 角) 68 金 まで 3 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
	飛								四
									五
									六
									七
		王	金						八
		角							九

持駒 なし

### 【作者のコメント】

キルケに透明駒を加えた作品を 4 作お送りしますので、宜しくお願いします。

まずは軽い作から。78 銀を同玉と取れることから、79 には先手の透明角又は透明桂がいることになるが、桂だと初手が illegal。よって角に確定し、68 金迄の fairy mate。

尚、68 銀、78 玉、79 金は 87 玉！とされて逃れ（例えば、86 に先手の透明歩がいることになる）。

### 【解説】

キルケと透明駒の組み合わせ。

透明駒だけでも難しいのに、キルケと組み合わせると更に難しいのでは……と危惧する方もいらっしゃると思いますが、本局はそんな方にもお勧めできる親切設計の作品です。

まずは透明駒・キルケを無視して、単なる協力詰として詰めてみましょう。

68 銀 78 玉 79 金 まで 3 手

この手順は「キルケ」を加えても詰みですね。でも「透明駒」を加えるとそうはいきません。攻方には透明駒が 1 枚あるので、それが 85 や 86 にいると 87 玉で逃れることが可能です。味方の透明駒が邪魔駒だとは皮肉な話です。

単なる協力詰と同じ手順では詰まないことが分かったので、次に「キルケ」を活用することを考えましょう。すぐに思い浮かぶのは八段目の金で詰める筋です。この初形なら 58・68・

78 に打った金は「同玉」と取り返すことはできません。復活した金が王手を掛けるからです。銀も同様です。68 銀や 78 銀は「同玉」と取り返すことはできません。

ということで、このような手を決め手にする方針で解き始めると、程なく重大な問題に行き当たると思います。キルケでは復活場所が埋まっていると、駒を復活させることができません。透明駒があるので復活できる保証はないのです。

さて、困ったことになりましたが、ここで次のような発想の転換ができれば問題は解決に向かって大きく前進します。

「復活するはずの駒が復活しなければ、復活位置に透明駒があると言えるじゃないか！」。

キルケルールは取られた駒の復活という要素がある分、一手から得られる情報量が多く、普通のルールより透明駒を特定しやすいのです。

ここからは着想を具体的な詰手順に結びつける作業になります。

復活するはずの銀が復活しないことを利用すれば、79 が透明駒で埋まっていることを証明できます。

銀を捨てる位置を 78 にすれば、「同玉」が反則でないことから 79 にいる透明駒が前に利かない駒であることも証明できます。

将棋で前に利かない駒は角と桂ですが、桂だと初形で王手が掛かっていることになるので、透明駒は 79 角に確定します。

ここまで来れば、後はキルケの 1 手詰です。最終手の 68 金は、79 に利いていませんが、79 角は取れません。取ると 88 に角が復活して王手になるからです。ルールの特性を活かした詰上りは気持ち良いですね。

本局では、キルケルールが透明駒の特定にも、詰上りにも活かされています。キルケと透明駒という、新しい組み合わせに慣れて貰うだけでなく、そこから生まれる可能性を感じさせることもできる、良いお披露目作品だと思います。

### 【短評】

暇人 EX さん

79 の透明駒が桂だと初形から王手なのでありえない、という認識でいいですか？

**真Tさん**

詰上がり角のキルケで 79 に利かすのがうまい。

**k zさん**

透明駒の問題は初回答かもしれません。79 に角があるという理屈でしょうか。

フェアリーにもいろいろあるんでしょうが、私は普通将棋ではあり得ない詰め上がりとか趣向とかが好きです。

私は自分でも理屈っぽいたちだと思いますが、透明駒は理屈っぽすぎて苦手です。

**変寝夢さん**

79 が桂やったら詰まないなあと思ったら初形にヒントがあった。

**青木裕一さん**

素直に金銀で詰まそうとすると、どうしても詰まない。

**たくぼんさん**

2 手目同玉の時に 79 銀復活しないのには 79 に頭が丸い駒がいる必要があり、桂では初形で王手がかかっている訳ですね。

最終手 68 金もキルケらしくて素敵です。

**一乗谷酔象さん**

一見 68 銀～79 金で捕まっているように見えるがそう甘くはない。

手順に現れない透明駒 79 角が渋い。

☆本局には 2 手目「同玉／39 銀(X=79 角)」の解答が複数寄せられました。キルケの細則に誤解があるようですが、本質的な部分は合っているので、おまけで正解としています。

キルケの戻り位置は「空いているマスのうち一番近い実戦初形の位置」ではなく、単に「一番近い実戦初形の位置」です。5 筋で金銀桂香が取られたときだけ戻り位置候補が複数になる場合がありますが、それ以外、戻り位置は固定です。本局の場合 78 銀の戻り位置は 79 なので、39 に戻ることはありません。

■ 121-8 高坂研氏作 (正解 6 名)

キルケ協力詰 3 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
皇									九
王	駒								

持駒 なし

※透明駒：攻方 1 枚、受方 0 枚

【解答】(※判明した透明駒を括弧内に記述)

98X／91 香 同香生 —X(=88 銀) まで 3 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
皇	銀								九
王	駒								

持駒 なし

【作者のコメント】

これまた軽い作。

3 手目が指せることから、2 手目香に取られた透明駒は盤上に復活していることになるが、初形位置から 99 玉に王手をかけられる駒は銀しかない。つまり、初手で香を取った駒は成銀だったのだ。

香が 91 と 98 を往復すると透明駒の種類が決まるところに、一寸したユーモアを感じ取って貰えたら幸い。

【解説】

「将棋の駒の中で真後ろにも斜め後ろにも利

く駒は何？」

こんなクイズがあったとして、玉・龍・馬の3つしか答えなかったら、満点は貰えません。実は銀もそうなのです。

銀は真後ろに利かない？ 元の性能は確かにそうですが、銀は成れば真後ろにも利くようになります。そして「キルケ」には駒が復活する時、「成駒は生駒になって戻る」という規則があるため、生駒と成駒の両方の性質が一局の詰将棋の中で現れることがあるのです。

本局はそんなキルケの特徴を活用し、最短の手数で表現した作品です。

まずは初形に注目。透明駒を使っているとはいえ、攻駒が盤上にも駒台にも見当たらない初形は大きなインパクトがありますね。もちろん、攻方にはまったく駒がないわけではなく、透明駒が盤上か攻方の駒台にあるはずですよ。

玉は盤の隅に閉じ込められ、空いているのは斜めのラインだけ。縦か横の王手だと香か銀のどちらかが取られ、取られなければ斜めからの王手だということになります。

まずは駒を取らない斜めの王手から考えてみましょう。この場合、銀や角(馬)、龍が王手駒の候補です。王では王手ができないので、候補からは真っ先に除外されます。そして龍や銀で王手できれば、1手で詰みます。最初の2手を使って、龍か銀であることを何とか証明できないでしょうか？

そんな虫の良い願望を叶えてくれるのが、香を往復させる冒頭の2手。しかも香を98に不成で移動させているので、元の局面に戻っただけに見えます。もちろんこれは無駄手ではなく、水面下では透明駒の絞り込みが行われています。

初手で香を取った手が王手であることにより、初手は真後ろに利く駒であることが分かります。そして2手目、香で98にいるはずの透明駒を取り返せたことにより、透明駒が馬だった可能性が消えます。馬なら88角として復活した時、王手になるからです。

そして3手目。今度は受方の駒が動かないため、透明駒は斜めから王手できる駒だったことが分かります。もし透明駒が龍だと98で取られた龍が28に戻るとき「飛」になるため最終手が王手になりません。作意でも紛れでもキルケの「成駒は生駒になって戻る」という細則が活

かされているわけです。

こうして真後ろにも斜め後ろにも利く駒として残った唯一の可能性が「銀」です。最初は成銀として盤上に存在し、銀になって復活したわけですね。88銀には紐が付いていませんが、取ると銀が79に復活するため、同玉とは取れません。キルケらしい詰上りです。

普通詰将棋では、成駒だった攻駒が生駒に戻って活躍するという作品には、なかなかお目に掛かれません。そのためには、一旦、成駒が受方に取りられてから攻方が取り返すという、回りくどい手順を経る必要があるからです。でも、キルケではそれは比較的容易に実現可能です。本局は透明駒との組み合わせから生まれた作品ですが、キルケの持つ面白い特性を再認識させる作品としても価値があると思います。

#### 【短評】

#### 真Tさん

3手目は初形と見た目一緒なのに1手で詰む。というか、初形と詰上がりも一緒ですね。

#### 変寝夢さん

キルケだと一度に複数枚の透明駒の位置が確定しそうですね。

金を取ってしれ一と持駒にするぐらいで。

#### 青木裕一さん

よく見ると、初形と2手目の見た目は同じ？

#### はなさかしろうさん

ずっと敬遠してきたキルケをやってみました。透明駒とのコンビネーションで楽しかったです。

#### たくぼんさん

これは悩みました。  
成銀で取ったとは発想が素晴らしい。

#### 一乗谷酔象さん

初手成銀ですか。なるほど。

■ 121-9 青木裕一氏作（正解4名）

安南詰 67手 ※利き二歩有効

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		銀			香	皇	龍		一
				香			香		二
					香	王	香		三
									四
								王	五
						香	香	馬	六
					香	桂	香		七
				龍					八
									九

持駒 歩4

※連続王手の千日手（同一局面4回）は禁手

【ルール】

• 安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

（補足）二歩について

性能変化ルールで「玉を取ったとき、二歩になる手を有効とするか否か」でルール設定が分かれる。これを有効とするのが「利き二歩有効」、無効とするのが「利き二歩無効」。何も書いていなければ、WFP 作品展では前者の設定を適用する。

【解答】

24歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24歩  
 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24歩  
 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24桂  
 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24歩  
 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24歩  
 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24桂  
 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24歩  
 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24歩  
 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩 24桂  
 同歩 33玉 45桂 42玉 34桂 同香  
 54桂 同龍 33桂成 同玉 23歩成 同玉  
 35桂 まで 67手

（詰上り）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		銀			香		龍		一
				香			香		二
					香	王	香		三
				龍		皇			四
						桂		王	五
						香	香	馬	六
					香			香	七
									八
									九

持駒 なし

【主な変化】

- サイクル中の合駒が角なら同歩、33玉、23歩成、同玉、34角、同香、35桂迄。
- 58手目 32玉は 34香、同玉、26桂、44玉、46香桂迄。
- 60手目 32玉は 42桂成、同金、23歩成、同金、42王迄。

【作者のコメント】

最後の審判×持駒変換です。

歩の成り捨ての後に歩打歩合を繰り返すと、同歩の瞬間に王手連続の千日手になります。直前の手は歩打、かつ同歩以外の受けがない逆王手なので、打歩詰になります。なので、歩合ができずに桂合になります。これにより、持駒の歩が桂になります。

これを繰り返し、持駒の歩を桂に替えたところで収束します。収束は捌けていると思います。

【解説】

「最後の審判」の持駒変換への応用。

一般に将棋は「二人零和有限確定完全情報ゲーム」の一つだと考えられています。しかし、厳密にはそうではありません。ここでは千日手に関する問題に着目しましょう。

昔、千日手の成立条件が「同一手順3回」とされた時代がありました。しかし、この規定では同一手順を繰り返すことなく無限に指し続けることが可能であることが示されました。将棋は「有限」のゲームではなかったのです。そのためルールが改定され、千日手の判定基準は「同一局面4回」とされました。そして、これで問

題は解決されたと誰もが思っていました。その予想を覆したのが縫田光司氏の「最後の審判」です。

問題は二つの反則「連続王手の千日手」と「打歩詰」が同時に生じたときの処置が決まっていなかったことでした。「勝」か「負」か「引き分け」か、決定できない局面が存在することをこの作品は示したのです。

これを詰将棋のルールの問題として捉えようと、連続王手の千日手を単なる「失敗」とみなすか、「禁手」とみなすかという問題になります。

本局では「最後の審判」の作意と同じく、連続王手の千日手を「禁手」とし、禁手の判定は再帰的に行います。また、千日手の成立条件も将棋での現在の規定と同様、「同一局面4回」とします。

少し長くなりましたが、必要な予備知識を改めて整理してみました。ここからがいよいよ本局の解説です。

初手「24歩」から、この歩をタダで捨てる手順で本局は始まります。この種の作品に慣れていないと無意味に見えるかもしれませんが、これは「同一局面」の始点を初手「24歩」の局面に定めることを目的とした重要な手です。以下「33玉 23歩成 同玉 25歩 24歩 同歩」の6手で同一局面が現れます。

初手をもし「25歩」から始めるとどうなるでしょう？

この場合は、以下「24歩 同歩 33玉 23歩成 同玉 25歩」の6手で同一局面が現れます。手数は作意とまったく同じですが、「同一局面」が最初に現れる始点の局面が異なってきます。

初手 24歩とした効果は 18手目に現れます。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		銀			香	皇	龍		一
				歩			香		二
						王	歩		三
							王		四
						歩	王		五
						香	香	馬	六
					香		桂	香	七
				馬					八
									九

持駒 歩2

作意はここで 24 桂ですが、ここで 24 歩とするとどうなるでしょう？

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		銀			香	皇	龍		一
				歩			香		二
						王	歩		三
							歩		四
							歩	王	五
							香	馬	六
					香		桂	香	七
				馬					八
									九

持駒 歩2

攻方は 24 歩を同歩と取ることができません。取ると 4 回目の同一局面が現れ、連続王手の千日手の禁手になってしまうからです。

しかし話はこれで終わりません。24 歩を同歩で取れないということは、攻方玉はこれで詰んでいるということです。24 歩合は逆王手であり、(利き二歩有効であることが、ここで活かされます)、歩を打って相手玉を詰めてしまいました。「打歩詰」の反則です。そこで受方は打歩詰を避けるため、桂合に手を変えたのです。

一方、初手 25 歩から入った場合はどうでしょう？

この場合 18 手まで何事もなく同じ手順を繰り返して、19 手目 25 歩としようとしたところで、手が止まります。もし 19 手目 25 歩ならこの局面で 4 回目の同一局面が出現するからです。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		銀			香	皇	龍		一
				歩			香		二
						王	歩		三
							歩		四
							歩	王	五
							香	馬	六
					香		桂	香	七
				馬					八
									九

持駒 歩2

初手 24 歩から入った場合と異なり、今度は

純粹に反則です。25歩の代わりに35桂としても不詰。代替手段は24歩しかありませんが、それでは無駄な迂回をしたことになります。

これで受方が桂合する理由と、攻方がそれを誘導する手段が分かりました。

攻方は当然この桂合を同歩で取りますが、今度は同歩とした局面が同一局面の始点となります。攻方持駒の歩が桂に変わったことを除けば、まったく同じ手順を続けることができるのです。

こうして18手サイクルの持駒変換が成立し、これを3回繰り返すと、攻方の持駒が桂3枚になります。歩がなくなったので、もう同じ手順は繰り返せませんが、代わりに3桂があるので、収束に入ることができます。

収束は詰将棋らしい手順が楽しめます。34桂と54桂の捨駒で退路を封鎖。これを逆順にすると34桂を同龍と取られて不詰なので、手順前後はできません。

退路封鎖が終わったら、45桂と24歩を捌き捨てて元の位置に玉を戻します。この辺は「積み崩し」の手法ですね。

そして最終手は35桂で香を元の性能に戻して鮮やかな両王手。香の前の桂ではなく、香の後ろの桂が跳ねる安南詰らしい両王手です。

本作は「最後の審判」の原理を持駒変換に応用した作品ですが、安南ルールを用いたことでシンプルな構図で、実現の難しい機構を成立させています。収束も充実しており、新規性の追求だけでなく、作品の完成度を高めようという作者の意志が感じられますね。

「最後の審判」は将棋のルールと関連するので、これが成立するかどうかを詰将棋の世界で独自に決めて良いかどうかという問題が付きまといまいます。でも、フェアリーならそれを気にする必要はありません。独自にルールを定めても、それはその作品に適用されるだけだからです。出題時にルール設定を明示し、解答者はそのルールで解けば良いのです。

千日手絡みの問題以外でも、あまり一般的でなかったり、人によって意見が分かれるようなルールがあったら、それをフェアリー作品として試してみると良いでしょう。

【短評】

真Tさん

連続王手の千日手禁を用いての持駒変換。千日手の初期局面を変えるための初手がポイント。てっきり桂合を挟んだ後も24歩短打でリセットしないとイケないと思ったら、桂合でも歩合でも取った局面は同じになっているのが不思議な感じ。

忍者うどんさん

このルールで単純に持駒を減らす手順が成立しているのは初でしょうか。難しくせず端的な表現が意味付けを際立たせます。

【たわごと】

60手目の32玉の変化を23歩成 同金 42桂成 同金 同玉に固定したくなります。が、難しそう。

最後の審判以外で安南なら将50号(1991/8)に山田康平氏作があり(結果稿(将58号1991/11)によるとカピタン14号1978/1山岸則雄氏作のネコ鮮詰に前例があるようですが)いずれも並べ直しましたが、先入観でかえって悩んでしまいました。参考まで。

☆忍者うどん氏からご紹介された作品を以下に示します。千日手利用の試みはかなり昔から行われていたことが分かると思います。

【参考図1】

山田康平 作  
安南詰 15手

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									皇	皇									一
									皇	皇							銀		二
									香								兵		三
										王	桂	香							四
									桂										五
																			六
										玉	飛	飛							七
											桂	桂							八
											歩	歩							九

持駒 なし

(将 第50号,1991年8月)

36玉 24玉 26玉 34玉 36玉 24玉  
26玉 34玉 36玉 24玉 26玉 34玉  
36玉 44玉 46玉 まで 15手

[参考図 2]

山岸則雄 作

ネコ鮮詰 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						歩	歩		三
						王			四
						桂	桂		五
						角			六
					香		玉		七
					桂	桂			八
									九

持駒 歩

(カピタン,1978年1月)

16歩 14玉 27玉 24玉 17玉 14玉  
27玉 24玉 17玉 14玉 27玉 まで 11手

【ネコ鮮】

盤上で味方の駒が縦につながっているとき、上からn番目の駒の利きは、下からn番目の駒の利きに変化する。

たくぼんさん

千日手にならないように攻めれば手が伸びる。収束の桂の使い方が見事でそちらに目が行ってしまった。

☆たくぼん氏は当初、初手 25 歩から入った誤解でした。千日手の判定はミスをしやすいため、解答記述後の見直しは必須です。



■ 121-10 馬屋原剛氏作 (正解 3名)

協力詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						玉	飛		一
						飛			二
			王						三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角銀

※透明駒：攻方 0枚、受方 2枚

【解答】(※透明駒の存在位置を括弧内に記述)

22角 41玉 31角成 同X 52銀(42X)  
まで 5手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					王	X	飛		一
				銀	X	飛			二
			王						三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

※31Xは角または馬、  
42Xは桂香歩のいずれか

<補足>

4手目の透明駒は角または馬。  
5手目の時点で攻方玉に王手がかかっているということは、42に歩 or 香 or 桂がいる。

【作者のコメント】

相馬慎一氏作 (パラ 2014) に「透明駒に取り返されないための最遠打」の作品があるが、本作はその逆、つまり、「透明駒に取り返されるための短打」を表現してみた。新手筋のはず。

## 【解説】

透明駒特有の手筋である疑似反則。

本局はわざわざ自玉に王手を掛けさせ、その王手を無視するかのような手を放つ「疑似反則」が出てきますが、その王手(のように見える手)自体を透明駒で行うので、通常よりも盲点に入り易くなっています。

まずは初形をよく観察しましょう。

32 飛の利きが強いのでこれを何とかしないと詰みません。でもたった 5 手では飛を動かす余裕もありません。

従って、飛の利きを遮る駒があることを証明しなければいけません。

その具体的な手段が 22 角の短打から 31 角成とする冒頭 3 手と、それを取り返す 4 手目同 X です。この手順が成立するには、4 手目の X が角か馬でなければいけません。42 銀が 31 馬を取ったとすると、初形で王手が掛かっており、王手無視を続けたことになってしまいます。初手 13 角ではなく 22 角の短打を選んだ理由も、角か馬で 31 角成を取ることを可能にするためだったのです。

こうして自玉に王手が掛かっているような状態を作ってから、敢えてそれを無視する 52 銀を放ちます。これが反則でないためには、42 に桂香歩のいずれかの駒があることが必須なので、思惑通り 32 飛の横利きが止まります。31 を受方の駒で取らせたので、これが退路封鎖に役立っているのも大きいですね。

透明な壁を発生させるために、見えない王手を掛けさせる手順は意外性十分。解答者の短評を読んでも、これが大きな盲点だったことが分かると思います。

念のため、作者のコメントにある「透明駒に取り返されるための短打」について補足しておきます。

短打が透明駒に取られるだけなら前例はあります。例えば詰将棋パラダイス 2014 年 5 月号に発表された会場健大氏の作は、飛の短打が透明駒に取られる作品でした。

多分、作者が言いたかったのは「一度動いた後に透明駒に取られるための短打」という意味だろうと思います。一度動いて取られる場合、「どうせ同じ場所で取られるのだから、最初にどこに打っても同じ」となりがちですが、実はそうではないところに面白さがあるわけです。

また、作者のコメントにある「透明駒に取り返されないための最遠打」の作品を紹介します。

【参考】透明駒に取り返されないための遠打

相馬慎一作 (※余詰)

ばか詰 5 手(透明駒:攻方 0 枚、受方 2 枚)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							歩	歩	六
					銀	歩	王		七
									八
							王		九

持駒 角

(詰将棋パラダイス, 2014 年 5 月)

38 銀 同歩生 81 角 17 玉 18 角成 まで 5 手 (※38 銀 17 玉 —X —X —X の余詰あり)

透明駒は今のところ機械検討できないので、作者が頑張って検討するしかありません。上に紹介した作も修正は容易と思われるので、ちょっと勿体なかったと思います。

## 【短評】

真Tさん

見えない壁がそこにある。

はなさかしろうさん

こんなに手が狭いののに散々悩んだ末、膝を打つ+31。なにより双玉の意味を深く掘り下げるべきでした。

たくぼんさん

詰上りが全く浮かばず図面間違っていると思ってました。

接骨院の電気治療を受けている時にビビッと閃いたのは電気治療器のおかげかも。

☆電気ショック解法!?

良い子は真似をしないでくださいね。

■ 121-11 馬屋原剛氏作 (正解5名)

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王	龍				一
								王	二
				銀			銀		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金2

※透明駒：攻方0枚、受方3枚

【解答】

22金 同龍 11金 同X 21龍 同龍 まで 6手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王			銀	X	一
								王	二
				銀					三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

<補足>

何も考えずに持駒の金を消費すると、トドメの龍捨てが駒取りの可能性が残り失敗する。4手目の透明駒は21から移動してきたので、5手目は駒取りではないことが保証される。

【作者のコメント】

取らず手筋をやってみたかった。

【解説】

「見えない毒饅頭に気をつけろ！」の一局。初形から「21龍 同龍」の詰上りが見えていますが、それを実現するには持駒の金2枚が邪魔です。だから21龍を消す前に持駒の金を捨てれば一件落着…とはなりません。それで

済んだら、いくらなんでも簡単過ぎますよね？

もちろん金は捨てるのですが、受方の透明駒の存在が曲者です。「21龍 同龍」を決行したとき、もし21に透明駒がいたら、それが攻方の持駒になってしまい、自玉が詰んでいると言えなくなってしまうのです。

この「見えない毒饅頭」を食べないためにはどうするか？

答えは「毒饅頭を片付ける」です。

21の透明駒に金を取って貰えば、21龍としても持駒が増える心配はありません。更に、透明駒が21以外から来た可能性をなくすため、先に「22金 同龍」として22を埋めておきます。従って「22金 同龍」と「11金 同X」の手順前後はできません。

取れる駒を、わざわざ手間を掛けて逃す「取らず手筋」を透明駒で実現するという、面白い狙いの作品でした。

なお、受方の透明駒が3枚なのは「11金 同X 13金 同X 21龍 同龍」のようにして透明駒を使い切る筋を防いだもの。透明駒の枚数を増やして余詰を防いでいるのです。

「取らず手筋」は最近使われるようになった用語ですが、それは詰将棋の草創期から存在し、手段も意味付けも様々です。ですからこれは、「手筋」というより「構成」や「演出」の一種と考えた方が良いでしょう。これを主題とした作品で、筆者の最も好きな作はこれです。

【参考図】

三代伊藤宗看 作

詰将棋 17手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				歩					一
料		馬							二
馬	飛		料						三
王									四
			歩						五
		馬	ス						六
馬	桂	歩							七
									八
									九

持駒 飛角

(将棋無双,第35番,1734年)

85角 同銀 74飛 同銀 85飛成 同銀

72馬 84玉 73銀 74玉 64銀成 84玉

73馬 94玉 95馬 83玉 73全 まで 17手

取れる位置に駒を呼び込んだ後、取らないで済むように待避させ、逆にその駒に取らせます。「呼び出し」「取らず」「取らせる」の三段構成は極めて効果的で、三つで一組の完成された演出と言えるでしょう。

【短評】

真工さん

先手が透明駒を取ってないことを示す。なるほど。

変寝夢さん

5 2 龍、5 2 + 等の紛れが強烈。

青木裕一さん

詰上りと必要条件が見えるので、手を付けやすかった。

はなさかしろうさん

21 を空きマスにしたいのですが、こんなに簡潔なのに結構悩みました。

たくぼんさん

1 段目の金を打って同じ位置に龍を捨てれば簡単と思いきやなかなか上手くいかない。1 段目にいる透明駒を動かすとは恐れ入りました。

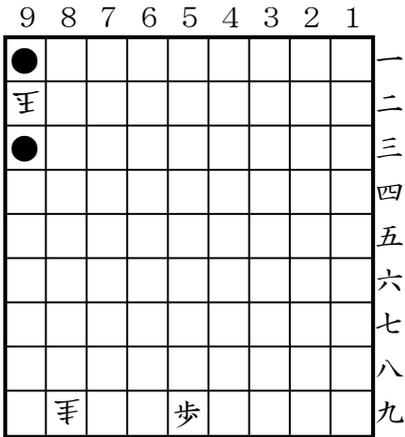
占魚亭さん (※誤解)

詰み形はこれしかないですが、3 手目が自信なし。

☆占魚亭氏は「11 龍 同玉 22 金 同龍 21 金 同龍」の誤解でした。この手順だと 11 の透明駒を入手した可能性が消えていません。

■ 121-12 変寝夢氏作 (正解 7 名)

駒全マネ禁協力詰 19 手



持駒 桂  
※●:着手不可、不透過

【ルール】

•駒全マネ禁

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

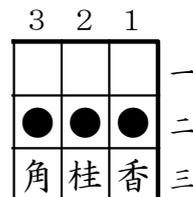
(補足)

- 直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手でしか詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- 成駒と生駒は別種の駒として区別する。また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132 号「駒全マネ禁詰の紹介」

•石 (●)

不透過・不可侵の領域を表す。跳び越すことは可能。



例えば左図で、  
12 香や 11 香成は不可。  
22 角や 11 角は不可。  
11 桂成や 31 桂成は可。

【解答】

84 桂 81 玉 72 桂成 88 圭 58 歩 87 圭  
57 歩 86 圭 56 歩 85 圭 55 歩 84 圭  
54 歩 83 圭 53 歩成 82 圭 62 と 92 圭  
71 と まで 19 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
●	王	と							一
手		圭							二
●									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

### 【作者のコメント】

駒全マネ禁ならではの遠隔操作をいろいろ試したいと思います。

### 【解説】

遠隔操作で“玉を含まない”送り趣向を実現した一局。

詰将棋には攻方王手義務があるため、送り趣向を実現した場合、「玉+何か」が盤上を移動するのが普通です。例えば「銀歩送り」は「玉+1枚の受方駒+1枚の攻方駒」がセットで移動する趣向ですね。

でも本局で動くのは「1枚の受方駒+1枚の攻方駒」だけ。玉は最初に一度だけ動きますが、趣向が始まってからは一切動きません。王手駒と異種の駒と、同種の駒が交互に動き、王手とその無効化を繰り返し、2つの駒がどんどん玉に近付いていきます。これは「駒全マネ禁」における典型的な遠隔操作手順ですが、これを利用して送り趣向に仕上げたのが、本局のアピールポイントです。

収束はちょっと考えさせられますが、近付けた成桂を退路封鎖に使うことに気付けば解決します。実はこれが攻方の歩だけでなく、受方の成桂を一緒に玉の近くに持ってきた理由だったのです。

作者は **WFP118-7** で「駒全マネ禁」の遠隔操作を利用した「持駒消去」を見せてくれました。遠隔操作系の趣向は今でも珍しいので、「駒全マネ禁」のような遠隔操作しやすいルールで、今までに見たことのないような作品に出会えるかもしれません。

### 【短評】

### 真Tさん

簡単…ではなかったです。

慣れないルールは難しく感じてしまいます。

### 青木裕一さん

単純なくるくる趣向。発展の余地はありそう。

### はなさかしろうさん

駒全マネ禁のルールを見ながら動かしてみました。易しくて好きです。

### たくぼんさん

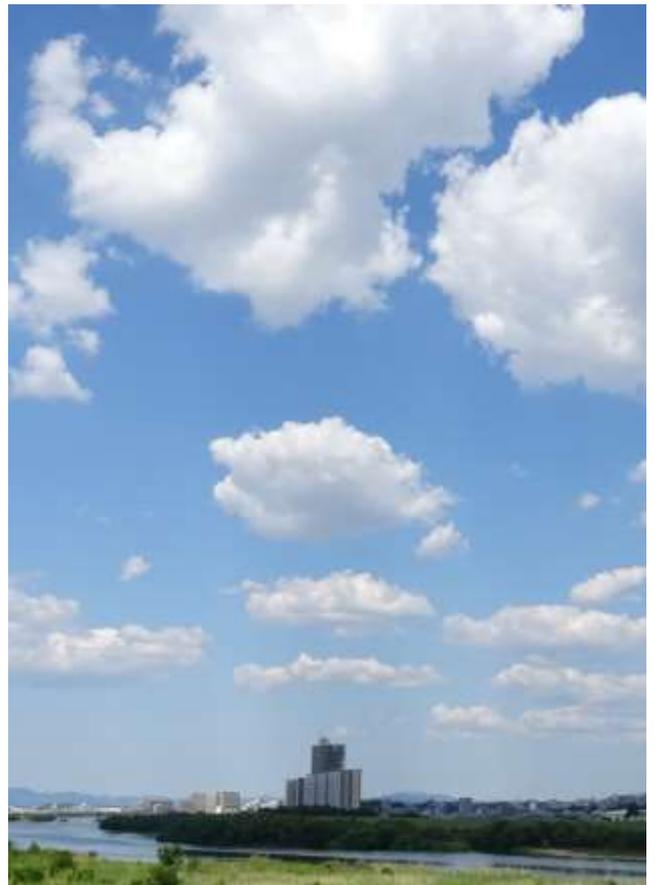
駒全マネ禁を楽しむことが出来る難易度と趣向の分りやすさ。魅力満載です。

### 占魚亭さん

駒全マネ禁である程度の手数のものをやるとなると、こういう感じになりますか。

### 一乗谷酔象さん

歩～と金と成桂のチェイスが面白い。



【総評】

変寝夢さん

透明駒の盛り上がりを見る度に、覆面駒でも  
そうであって欲しいなあと思います。

はなさかしろうさん

昔からの将棋友達が誘ってくれたので、初めて  
オンライン飲み会なるものやってみました。  
よもやま話のついでに最近嵌っている  
透明駒を紹介したのですが、簡単な例題がす  
ぐに思い浮かばず、結局 Fairy TopIX2019 の  
短編部門 1 位と 3 位で説明しました。透明駒  
独特の倒錯する論理のおもしろさをうまく  
伝えたかったのですが…とりあえずひとり  
は楽しんでくれたようです。

☆私も昔、学校や会社の将棋部でフェアリーを  
見せていました。あまり食いついてくれる人  
はいないので、興味を持ってくれそうな相手  
を選ぶことが重要ですね。相手に嫌がられな  
い範囲で普及活動を行いましょう。

最近ではコロナの流行で、オンライン会議が広  
く行われるようになりました。これがもっと  
普及すれば詰将棋の会合もオンラインで行  
えるようになると思います。全国大会のよう  
な 100 人規模の会合は無理ですが、少人数な  
ら可能でしょう。短時間の「スポット参加」  
がしやすいとか、遠方からの参加がしやすい  
等のメリットもあると思います。

たくぼんさん

相変わらず、■には手こずります。3 番以降  
はなかなか楽しめる作品のラインナップで  
した。馬屋原さんの初登場も嬉しい限りです。

一乗谷酔象さん

今月も低空飛行です。

以上

# 推理将棋第127回出題解説

## 推理将棋第127回解説 担当 Pontamon

第127回は、2問で2回ずつの余詰というボロボロな状態でトップページの初画面は真っ赤っか。担当の力不足が露見しました。毎月だろうという声も聞こえて来そう（苦笑）

今回は問題が難し目だったためか解答は15名と少な目でした。正解が少なかったが初級という大波乱の回でした。

\*\*\*\*\*

### 127-1 初級 Pontamon 作 2手前と同じ棋譜 9手

「棋譜で駒種の後ろに付く「不成」とかは補助記号って言うのかな」

「何て言うのかな、で、どうしたの？」

「9手で詰めた棋譜で「不成」がひとつだけで他の補助記号は無かったんだ」

「特に珍しくは無いね」

「でも、補助記号を無視すると2手前と同じ棋譜になる手があったのは珍しいと思うよ」

(条件)

- ・9手で詰み
- ・棋譜で、駒種の後ろに付く補助記号は「不成」がひとつだけで他には無かった
- ・「不成」を無視すると、2手前と同じ棋譜になる手があった

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 Pontamon)

2手前と同じ棋譜の手は可能なのでしょうか？カラクリを解明しましょう。

締め切り前ヒント

地点表記が不要な同の着手が2手前と同じ棋譜になりますが角ではうまくいきません。

\*\*\*\*\*

### 推理将棋127-1 解答

▲56歩、△42金、▲55歩、△54歩、▲同歩、△53金、▲同歩不成、△72金、▲52金まで9手

(条件)

- ・9手で詰み

・棋譜で、駒種の後ろに付く補助記号は「不成」がひとつだけで他には無かった（7手目▲同歩不成）

・「不成」を無視すると、2手前と同じ棋譜になる手があった（5手目▲同歩、7手目▲同歩不成）

詰上がり図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	我	將		王		將	我	皇	
二		遊	季		金			皇		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四										
五										
六										
七	歩	歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	
八		角						飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

条件から、同じ棋譜の片方は不成の着手なのがわかるので、すぐに思いつくのは22地点の角着手。▲22角不成で取った角を▲22角と打てば片方は不成が付き、もう片方は付かないので条件をクリアできそうです。しかし、▲22角不成を△同銀で取って貰ったとしても22地点には銀が居るので次の手番で▲22角を打つことができません。22の角が移動してから22へ戻ってくるのであれば4手目になってしまいます。

しかし、ここで気付くことがあるはず。△同銀の棋譜は"同"の表記によって着手地点の表記が不要になっています。つまり、同の着手であれば着手地点に囚われることなく同じ棋譜になる着手を実行することができるのです。そこで、手早く指すことができる▲同角と▲同角不成を含む9手詰手順を考えたのが参考1図です。

参考1図：▲76歩、△44歩、▲同角、△72飛、▲53角不成、△42金、▲同角不成、△62玉、▲53金まで9手

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	飛	王			飛	科	皇	一
		飛	王		角		馬		二
歩	歩	歩	歩	金		歩	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

確かに9手で詰んでいるのですが、▲同角の後の▲同角不成は2手後ではなく4手後になっているし、不成の着手が2回になっているので失敗です。

参考2図は先の失敗を念頭に入れて、▲同角と▲同角不成が連続するように9手指した図ですが、72の退路があるために詰んでいません。

参考2図：▲96歩、△54歩、▲97角、△64歩、▲同角、△42金、▲同角不成、△62玉、▲53金 9手

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	飛	王			飛	科	皇	一
	飛		王		角		馬		二
歩	歩	歩		金	歩	歩	歩	歩	三
				歩					四
									五
歩									六
	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

これらの他にも、▲76歩、△52玉、▲33角不成、△44歩、▲同角不成、△33角、▲同角不成、△62金、▲34角の2枚角による詰

みもありますが、不成が2回になってしまいます。

どうやら角では駄目なようです。では同の連続着手ができて詰みへ持っていける駒種は何でしょう？香だと玉から遠いので条件クリアができそうにありません。桂は駒成がないと吊るし桂の形に持っていきません。銀は敵陣まで遠いので駄目ですし金は不成がないので除外される駒です。飛は▲66歩、△34歩、▲68飛、△66角、▲同飛、△64歩、▲同飛の7手目までで不成なしの連続同飛ができますが残り2手での詰みはありません。

となると、残るのは歩です。歩の遅早とは言ったもので、7段目に居る歩は9段目の銀よりも早く敵陣へ到達することができ、それは7手目です。つまり、先手には残り1手があるので、5手目と7手目の同歩で金を手に入できれば、歩の頭へ金を打っての詰みの形が見えてきます。筋はもちろん頭金にできる5筋です。

初手から、▲56歩、△○金、▲55歩、△54歩、▲同歩、△53金、▲同歩不成、△何か、▲52金までの9手になるはずですが、8手目は、飛の横利きを遮りつつ、最終手の▲52金を同で取れないようにする必要がありますので△72金になります。となると53地点で取らせるため2手目に上がる金の手は左金の手になりますが、52へ上がると△52金左の棋譜になってしまうので正解は△42金になります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「「6手前」と「4手前」の作品の投稿があったので「2手前」の作品をつくりました。詰み上がりはミニベロさんの「36-3 上級 急所は駒頭」やDD++さんの「第60回の練習問題」と同じなので新作ではないですが、年数が経っているので角で迷っていただければ大成功」

ミニベロさん「これ、94問題で私が使った順だ。36-3 10年前だ！問題を読み違えてました。途中のどこでもいいんですね。やられました。いい問題です。何がいうって、金の軌道が限定されていることで

す。左も付かない！この順をこういう条件で表現できるとは！深いです。」

■最終手での不成を考えてしまうと、9手で使える駒は角くらいなのではまっています。

ほっとさん「2手前と同じ棋譜、ということは同○のパターンしかない。2手目金を52に動かすのは補助記号が付いてしまう。」

■不成からの成を規制しているみたいな条件だけど金の動きを限定。

はなさかしろうさん「うまい条件ですね。歩突きからの頭金は、どういうわけか忘れてしまいがちで、同角一同角不成を結構探してしまいました。」

■初級から楽しまれたようですね。

NAOさん「"同"で棋譜表記が同じとしておこう。」

■"同"は御明算。謎をひとつ解明したところがスタート地点。2手目の△52金左は「左」が付いているので条件をクリアできませんでした。

緑衾さん「同の手を連続で指すのはすぐ分かったのですが、しばらくの間角を使う筋を考えてしまいました。」

■作者としては狙い通りの短評で嬉しいです。

RINTAROさん「5筋に気付けば簡単だが、補助記号条件が2手目限定にも役立っており、佳作。」

■複数の強豪解答者も見逃す2手目限定。

S.Kimuraさん「歩では詰まないと勘違いして、まんまと嵌められました。」

■忘れた頃の歩の作品は効果抜群のようです。

たくぼんさん「2手目42金も成立しているけど余詰順だろうか？」

■2手目42金を解答に書いていただければ正

解だったのですが、52金では右なのか左なのかが限定されていません。8手目が72金なので「52金左」が2手目だと解釈することになり「左」の補助記号が付くので条件を満たしていませんでした。

波多野賢太郎さん「けっこう悩みました。同の着手でも同角、同角不成にこだわってしまいました。2手目もきっちり限定されているのはうまいです。」

■初手76歩から角が出て行く手順が圧倒的に多いので、どうしても角の手を考えてしまいます。

山下誠さん「なるほど、同歩という手がありましたか。」

■9手詰で同の着手が可能なのは、香以外の生の駒と玉と馬。小駒で一番多いのが同歩です。

飯山修さん「これは最後迄判らなかった。『行き詰まったら過去問見直し』を実践したら36-3に行きついた。」

■9手詰の過去問を順に見て行ったのかな？条件や棋譜の一部で探してもヒットしないはずなんだけど...

D Jカートンさん「127-1は詰み形が全く見えない上に「着手地点が異なる同x」を同じ符号とするのはイカサマだろう、と思ってしまった。」

■日本将棋連盟の「棋譜の表記方法」に従っているのでイカサマではありません。(笑)

諏訪冬葉さん「"同"を使うのはすぐわかりましたが、ヒントを見るまでは角だと思っていました。」

■思い込みは危険です。視点の変更が必要です。⇒余詰を見逃す担当自身への戒め。

原岡望さん「ヒントあってもお手上げです。同は気づいていましたが同一地点と即断していました。」

■同一地点は上級の条件でした。先手と後手で

の連続の同だと同一地点ですが2手前にはなりません。

\*\*\*\*\*  
 正解：9名  
 ミニベロさん ほっとさん はなさかしろうさん  
 緑衾さん RINTAROさん 波多野賢太郎さん  
 山下誠さん 飯山修さん 諏訪冬葉さん  
 \*\*\*\*\*

**1 2 7-2 中級 緑衾 作**  
**国 1 1 手**

「9、11手目の連続王手で詰みだね」  
 「詰上がり図で後手玉の周囲8マスすべてに駒があったよ」  
 「6手前と同じ筋への手はなくて、4手目は金駒ではなかったね」

(条件)

- ・9、11手目の連続王手で詰み
- ・詰上がり図で後手玉の周囲8マスすべてに駒があった
- ・6手前と同じ筋への手はなかった
- ・4手目は金駒ではなかった

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 Pontamon)

6手前と同じ筋の着手にならないように手順をやり繰りしてください。

締め切り前ヒント

玉の隣の金を桂成で取ります。どちらの金をどちらの桂で取るのかで10経路あります。

\*\*\*\*\*

推理将棋 1 2 7-2 解答 担当 Pontamon

▲96歩、△32銀、▲97桂、△62飛、▲85桂、△42金、▲73桂不成、△41銀、▲61桂成、△52玉、▲51金 まで11手

(条件)

- ・9、11手目の連続王手で詰み (9手目▲61桂成、11手目▲51金)
- ・詰上がり図で後手玉の周囲8マスすべてに駒があった
- ・6手前と同じ筋への手はなかった
- ・4手目は金駒ではなかった (4手目△62飛)

詰上がり図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	圭	金	爵		科	皇	
二				遊	王	王		馬		
三	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四										
五										
六	歩									
七		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八		角						飛		
九	香		銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

詰み形はタイトルにもなっている「国」の形、すなわち玉の周り8マスが駒で埋め尽くされている強固な砦を攻めるには壁の外側から角と桂の連携による吊るし桂が思い浮かびます。参考1図のように、11手で吊るし桂で仕留めることはできましたが、王手は2回なものの最後の連続王手にはなっていません。

参考1図：▲76歩、△92飛、▲33角不成、△62玉、▲22角成、△72玉、▲21馬、△82玉、▲46角、△72金、▲74桂 まで11手

参考1図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵			王	爵	馬	皇	
二	遊	王	王							
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四			桂							
五										
六			歩			角				
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

9手目と11手目を連続王手にしてこの詰み形にするのであれば、玉の媚びんが空いている状態で9手目の角打ちの王手、玉の媚びんを埋める手の後に桂打ちで仕留めるといった筋書きがありそうです。参考1図では玉は82まで遠征

しているの、初期配置の近くの 52 とかだと手数減らせるので実現できそうですが、実際には手数が足りなくて失敗します。(角での王手に合駒で国囲いを完成させて、外からの桂打ちではなく合駒を取ってしまうという余詰手順が NAO さんから指摘がありました。)

条件やタイトルから、玉の周り 8 マスは全て後手の駒だと勘違いしてたようです。「国」の壁の位置に居る玉に 9 手目に王手を掛けて、玉が国の中心へ動いたところを、玉が居た壁の位置への最終手で詰ます手順がありそうです。参考 2 図はこの方針で詰めてみたものですが、13 手掛かってしまいました。

参考 2 図：▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△42 銀、▲31 角成、△72 金、▲41 馬、△61 玉、▲75 歩、△51 銀、▲52 角、△62 玉、▲61 金 まで 13 手

参考 2 図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	駒	金	駒	馬		科	皇	
二		遊	王	角						
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		
四							歩			
五			歩							
六										
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 なし

手数オーバーになった原因は何でしょう？先手は手待ちの▲75 歩を指していますがトドメの金打ちをするための金取りが強すぎる馬だったために後手の「国」作りを 1 筋ずらす必要が出たためです。つまり、初形の 51 の玉の隣の金を大駒の成駒ではなく、小駒の成駒もしくは小駒の駒成で取っての王手が 9 手目であれば、玉は 1 マス直進して、先手は玉尻へ取ったばかりの金を打ちこんで詰みにすることができます。

玉腹の金を小駒で取るとなるとちょうど良いのは桂成で取る手です。成桂が 41 か 61 に

出来て、玉が 52 へ上がり、▲51 金で詰ますには成桂を作った反対側の金の初形位置に金があつては駄目なので、そこは横に利きが無い銀か角が居ることになります。41 や 61 は角筋ではないので、ここは銀になりそうです。金は直で上がっておく必要があります。この金銀で片側の縦の壁はできます。反対側の縦の壁の 2 段目は何でしょう？金は先手が取るので 51 への利きが無いものと言えば飛になります。

桂を跳ねて行って、「国」を構成する 53 の歩を取るわけには行かないので、▲33 桂不成か▲73 桂不成からの金取りになりますが、初手が▲36 歩や▲76 歩では 6 手後が▲33 桂不成や▲73 桂不成になるので条件をクリアできません。つまり、桂は端から出て行くことになります。1 段目の銀と 2 段目の金の縦の壁を作るには、金銀がそれぞれ直進してから銀を引くことになります。反対側の 2 段目は飛ですが、△42 飛にすると右金と右銀の直進は飛の着手の後にすることになり、4 手目は金駒ではないという条件に違反します。つまり、飛は△62 飛であり 4 手目に指す必要があります。

着手を整理すると初手から▲96 歩、△左の金か銀、▲97 桂、△62 飛、▲85 桂、△左の金か銀、▲73 桂不成、△41 銀、▲61 桂成、△52 玉、▲51 金 までの 11 手になります。左の金と銀が直進する手は何手目でしょう？8 手目が△41 銀ですのでその 6 手前となる 2 手目は 4 筋ではなく 3 筋の△32 銀になり、6 手目が△42 金です。

指摘があつた余詰手順は以下の通りです。

ほっとさん：

▲76 歩、△52 玉、▲44 角、△54 歩、▲71 角成、△44 歩、▲42 銀、△43 玉、▲61 馬、△32 玉、▲43 金

はなさかしろうさん：

▲76 歩、△34 歩、▲22 角成、△14 歩、▲31 馬、△52 金右、▲53 馬、△61 玉、▲62 銀、△72 玉、▲61 角

NAO さん：

▲76 歩、△34 歩、▲22 角成、△52 飛、▲11 馬、△42 玉、▲32 香、△51 金右、▲15 角、△33 桂、▲同馬

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

緑衾さん(作者)「連続王手の条件は Pontamon 様の案です。125-2 がヒントになってないといいいのですが。」

■締切前ヒントが出た後だと先々月の手順を思い出すかもしれませんね。多々ある「国」の中で連続王手の条件だと作意順を限定できそうだと思うのですが、担当の力不足でした。

ミニベロさん「危ない順が相当あるが、どれも際どく逃れている。紛れを読ませる作風なんですね。連続王手が保険になって、限定できているようです。」

■国の詰み上がりは7手詰の23歩成までを筆頭に沢山あります。

ほっとさん(双方解)「端から桂を活用すると「6手前と同じ筋への手」を回避できる。なるほど。」

■初手76歩だと7手目の73桂不成ができません。

はなさかしろうさん(双方解)「(余詰解答時)国、というと玉は味方に囲われている印象ですが、連続王手との相性を考えると敵が紛れ込んでいる方がやりやすい。というわけで、先手3枚で攻めてみました。作意解はまだ見つかりません。

(作意解答時)一段目に飛か金を並べるの玉方も玉脇に飛か金を2枚使うので駒不足、成銀づくりは手が足りないと思っていましたが、桂で行くんですね。技巧的な手順限定の2条件も解いてから見ると、なるほどと思いました。」

■後手が1手余す余詰手順に脱帽です。

NAOさん(双方解)「(余詰解答時)周囲8箇所"国"囲いとなると、2段目の32~72のいずれかだが絞りきれず苦戦。形だけの32香を打って解決。

(作意解)詰形は32~72のどこか探索した

が、作意順は本命の52玉形。端桂が間に合うとは驚き」

■最奥まで連続桂跳ねが意外な手順。

RINTAROさん「条件より角を使いたくなりませんが、桂を使うとは思いませんでした。このような作品は、詰上図の推察が肝なのですが、本詰上図にはなかなか至りませんでした。気付けば「なーんだ」ですが、6手前条件での限定が上手いですね。」

■76歩の初手と7手目の他にも2手目と8手目の4筋の両方を消して手順を限定する条件でした。

S.Kimuraさん「8マス埋めるのに手数がないと思っていたら、先手が2枚埋めれば良かったのですね。」

■後手駒で国囲いをガチガチに固めた外からの桂での姿焼きにしたいところですが手が足りません。

たくぼんさん「割と分りやすく桂のルートが特定できたので楽しめました。」

■もうひとつの金が1段目に残っていると駄目なので、早々と2手目に上がると6手前条件をクリアできません。桂のルート以外にも課題はあったはずですが気にならなかったかな。

波多野賢太郎さん「これはヒントを見ました。詰み形が、角打、合駒、桂打しか浮かばなかったです。それにしても、これで余詰が次々と出てくるのもなんか凄いですね。」

■角打、合駒、桂打は解説で採用した形で、これが無理だから余詰は無さそうだった担当の力不足。余詰解答者解図力が凄い。

山下誠さん「初手1六歩ならば2手目は4二飛。よって初手9六歩に決まりました。」

■初手が16歩や36歩だと、4手目が金駒になってしまいます。76歩は一目でNG判定でしたでしょうか。

飯山修さん「○手前と同じ筋ではないという条

件は新手筋？手順前後のある余詰解消に結構使えるのでは」

■ 2手前や4手前だとまだ解き易い感触です。

D Jカートンさん「周りを埋めて角&桂で詰ます形」をメインで考えてしまう。全然違うじゃないかー。」

■ 余詰の検討はもちろんその筋からでした。

諏訪冬葉さん「72玉を詰まそうとするも6手前の制限を破れず。尻金が正しかったのか。」

■ その72玉を詰ます余詰手順が2つ。(ほっとさん指摘手順の左右反転とはなさかしろうさん指摘手順)

\*\*\*\*\*

正解：14名

ミニベロさん ほっとさん はなさかしろうさん NAOさん 緑衾さん RINTAROさん S.Kimuraさん たくぼんさん 波多野賢太郎さん 山下誠さん 飯山修さん D Jカートンさん 諏訪冬葉さん 原岡望さん

\*\*\*\*\*

1 2 7 - 3 上級 三日京 作  
4手前のアリバイ 1 2手

「8手目にいた地点に12手目に戻って詰ませることができるのだろうか」

「できるね。レアケースだけど可能だよ。最後に成ればいい」

「いや、成る手はないんだ。同一駒が同一地点に戻って初王手詰」

「それだとちょっとやっかいかな」

「金と銀の間に着手があったらしいけど、これは縛り条件かもしれない」

「ヒントになるとも言えるね」

「先手に駒を取る手はなかったね。また、先手は同じ筋に3連続で着手したね」

(条件)

- ・12手目の初王手で詰み
- ・8手目と12手目は、同一駒を同一地点に着手
- ・金と銀の間に着手があった ※
- ・成る手なし
- ・先手に駒を取る手はなかった
- ・先手は、同じ筋に3連続で着手した
- ※「2筋と7筋の間」や「22の角と88の角の

間」のように場所が指定されていなくて、単に二つの駒の「間」なら、縦・横・斜めのいずれかの一直線の配置で、間に1マスだけがある配置になります。

したがって、金と銀の間へ着手した駒は両方の駒に接していることになります。

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 Pontamon)

4手前は最終手と同じ地点の同じ駒なのに詰んでいなかったことになります。

締め切り前ヒント

金銀の間への着手は▲58金上なので、3枚の金気が無い9段目の飛で仕留めます。

余詰修正

会話と条件に「先手に駒を取る手はなかった」と「先手は、同じ筋に3連続で着手した」を追加。

\*\*\*\*\*

推理将棋 1 2 7 - 3 解答 担当 Pontamon

▲26歩、△34歩、▲25歩、△44角、▲26飛、△同角、▲48銀、△39飛、▲68金、△37飛不成、▲58金上、△39飛不成 まで12手

(条件)

- ・12手目の初王手で詰み(12手目△39飛不成)
- ・8手目と12手目は、同一駒を同一地点に着手(8手目△39飛、12手目△39飛不成)
- ・金と銀の間に着手があった (11手目▲58金上)
- ・成る手なし

詰上がり図

後手の持駒：歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五								歩		
六								銀		
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	
八		角		金	金	銀				
九	香	桂	銀		玉		銀	桂	香	

持駒なし

8手目と12手目が同じ地点での同じ駒の着手



ん。つまり、角で飛を取る位置は、59と15を結ぶ線上の地点でなければいけません。残っている地点は26です。

初手から、▲26歩、△34歩、▲25歩、△44角、▲26飛、△同角の6手目で26地点で飛を入手することができました。7手目は飛の打ち場所を空けるための▲48銀に8手目は△39飛、続いて▲68金に△37飛不成で歩を取るのが角で48の銀をピンするのに必要な一手。11手目に金銀に挟まれた地点への着手の▲58金上で9段目の障害物がなくなり△39飛不成で詰みとなります。

ほっとさんから余詰手順の1と2の指摘があり、「先手の駒取りなし」の条件を追加しましたが、さらに3の余詰指摘があって「先手は、同じ筋に3連続で着手した」の再修正になりました。

1. ▲76歩、△44歩、▲同角、△42飛、▲48玉、△44飛、▲59金左、△69角、▲38飛、△47角不成、▲43歩、△69角不成
2. ▲76歩、△44歩、▲同角、△42飛、▲38飛、△44飛、▲48玉、△14角、▲59金右、△47角不成、▲49歩、△14角不成
3. ▲76歩、△34歩、▲48玉、△88角不成、▲59金左、△69角、▲66歩、△同角不成、▲38飛、△55角、▲56歩、△66角

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

三日京さん(作者)「再三の余詰、申し訳ありません。すでに解答もいただいているようですので、今更撤去もできず、見苦しく再修正いたしました。ご指摘くださいましたほっとさんには感謝し、また降参いたします。」

■担当の力不足を深くお詫び申し上げます。

ミニベロさん「懐かしい寡作作家ですね。3手で飛車を取って3手でミッションを遂行する。もう動けない駒なので、どこで飛車を取るかは重要。忙しい後手に比べて、のんびりとした先手の出だし3手は読みにくい。26角と玉をさらにさえぎる48銀。幸いこの銀をピンする作品を持っていたので見えたが、難問だと思う。このアイデアはいただきます！」

■このアイデアの作品をお待ちします。銀をピンする作品はあるとのことなので、同一駒を同一地点に着手というアイデアのことかな？

ほっとさん(双方解)「(余詰解答時)「同一駒を同一地点に着手」ということは、棋譜表記が異なってもOKと判断。

(作意解答時)結局ヒント待ちになってしまった。飛を26で取るパターンは初めて見た気がする。」

■成は他の条件で規制されていますが、どちらの手の棋譜に不成や同が付いていてもOKです。

はなさかしろうさん(双方解)「両王手の匂いのする条件。そこで、6手目26同角と飛を取り、以下28銀、39飛、68金、37飛不成、58金上、39飛不成で実現ですが…7手目が48銀でも詰み、というのは目先が違っていただけに目から鱗でした。」

■担当は「金銀の間」の条件をキーにして解図したので悩まされました。両王手を疑っても形は多種多様なので簡単には解けないはず。さすがの解図力ですね。

NAOさん「「同一駒の同一地点着手」は面白い条件。96角や56飛の順に陥ったが「金と銀の間に着手」条件が厳しく12手では間に合わない。8手目39飛では全然詰みそうにないところ4手で収束。」

■48の銀をピンする形が諸問題を解決しています。

緑衾さん「10手目の位置が限定されているはずだから両王手かそれに近い形なのかなと考えました。この類の手の検討が必要な問題を偶然考えていたのですぐ解けました。11手目に玉が動けばいいのではと思ったのですが直前にいたマスへ逃げられるんですね。」

■ひょっこりはんのように玉が顔を出して王手を掛けられても戻れますね。

RINTAROさん「1段目の飛不成での詰上りがこんな手順でも実現できるんだな。金と銀の間の着手条件がちょっと苦しいですか。」

■一間龍なら玉の媚びんはカバーできますが、生の飛だと玉の媚びんを抑えるにはもう一枚必要になります。直接カバーするか敵駒をピンして動けなくするかですね。

S.Kimura さん「ヒントを見ても、詰み形が分かっているはずなのに、手順を見つけるまでに相当に時間がかかりました。飛車先の歩を2回突き出すとは意表を突かれました。」

■6手目に飛を取らせなければいけません、飛を横移動させない分、悠長な序が可能になっています。

たくぼんさん「37で飛を取らず順はあまり見かけないような気がします。全く無駄が無い手順で完成度の高さを感じます。」

■37の飛を取る手が王手になってしまうので条件をクリアできていませんでした。正解はさらに見たことが無い26の飛を取る手順でした。

波多野賢太郎さん「これもヒントを見ないとお手上げでした。ヒントを見てからも、飛車を三七で取らせることばかり考えてしまい悩みました。」

■2回目の余詰修正でも、36歩、38飛、37飛の3筋の3連続着手が残っていました。でも36歩と38飛は手順前後可能なので裏読みすると2筋が見えます。

山下誠さん「後手角の最終位置は七七か三七しかないと思い込んで苦労しました。」

■飛取りが37や77でも似た手順での詰みになりますが、その角着手が王手になってしまいまず。

飯山修さん「1、3、5、7筋の飛車はすぐ気がついたが何故かもっとも自然な2筋の飛車が最後になった」

■7段目での飛渡しならそれら4つ、58玉の形なら56歩と突いて48や68でも飛を6手目に渡すことが可能。気づき難い26での飛渡しました。

D Jカートンさん「▲37飛△同角生が王手に

ならない方法」をメインで考えてしまう。飛車で37歩を取ればいいのか。」

■37での飛取りを1手遅くすると、8手目の飛打ちからの12手目での戻り着手に間に合いません。かと言って、48や68で飛を取らせると最終手は成になってしまうし、金と銀の間の条件をクリアできません。

▲68飛、△14歩、▲58玉、△13角、▲56歩、△68角不成、▲38金、△59飛、▲48玉、△69飛不成、▲58玉、△59飛成

諏訪冬葉さん「37で飛車を取ろうとして王手になり失敗。37は飛車で開けるのか。」

■角で銀を直接ピンするのではなく、飛車で37の歩を取って銀をピンするという捻った手順。

原岡望さん「これは分かりやすい。条件に無理があるような」

■2回の条件修正の代わりに「金と銀の間へ駒移動」にすれば良いのかと思ったのですが、1回目は駒打ちでの△69角でも4手後に△69角不成で戻る最終手が修正条件を満たしてしまうので失敗になるところでした。

\*\*\*\*\*

正解：13名

ミニベロさん ほっとさん はなさかしろうさん NAOさん 緑衾さん RINTAROさん S.Kimuraさん 波多野賢太郎さん 山下誠さん 飯山修さん D Jカートンさん 諏訪冬葉さん 原岡望さん

\*\*\*\*\*

総評

緑衾さん「3問目がたまたま解けたので今回は簡単でした。新人の登場はうれしいです。」

■担当も三日京さんは初登場だと思っていたのですが、ミニベロさんの解答の短評を読んで、16回と21回に登場されていたことに気づき、出題文をこっそり変更していただきました。

RINTAROさん「今回は3問とも好作でした。ヒントも優秀で何とか全問解けました。余詰が残念でしたね。前回私が126-3で指摘したのは、「2度目の王手」と言うときに先手後手含めて言うことに違和感を感じたからです。しかしな

がら、今改めて問題文を読むと「詰ませてたよ」と第3者が発言しているのですね。それなら、多少は理解できますが、通常は先手後手それぞれの王手回数を言うと思うので、第3者でも先手後手含めて言うのかなという疑問はあります。おっしゃるように「推理将棋の世界では先手後手という指定がなければ全ての手が対象になっている」ということですので、先入観をなくしていけるよう努力します。」

■「推理将棋では先手や後手の指定がなければ、成や不成の回数とか王手回数、着手する駒（大駒とか駒種の指定）など全てはその対局中の手が対象になっています。」と担当コメントを書きおきながら、出題文は「2度目の王手」でしたので、「度目」から受ける感じは、同じ対局者（この場合は後手）が2回王手したという意味に感じられる方もおられるでしょうね。担当が気付くべき表現でした。申し訳ありません、今後「回」で統一できるように気を付けます。

S.Kimuraさん「展示室に時間がかかったため、ヒントが出るまで全問解けませんでした。」

■展示室の締め切りは月末なのですね。慌てて解答したのか、初級の2手目はうっかりミスだったようです。

たくぼんさん「ヒントなしでは、かなりの難問でした。ヒントありで程よい良問で楽しめました。」

■難問が解けたと思った一瞬の心の緩みがケアレスマスを招いたようです。

波多野賢太郎さん「今回の特集、やっぱり難しかったです。○手前という条件はぼんやりとした緩い条件なので、詰み形がパッと浮かびづらかったです。」

■○手前のぼんやりとした条件って作者としては使い易いかも。たとえば「4手前も王手だった」の条件だと、最終手とその4手前が王手だったと思ひ込む可能性が大。実は王手は3回で1回目と2回目の王手の間が4手だったというオチ。2回目の王手の手番に王手とそうでない手があって限定する必要がある場合などで使えそう。と変なことを書くと、以前のように後で

本気で作図に取り組んだりして。今回はオチをばらしているから駄目か（笑）

飯山修さん「前回の126-3の叙述トリックの件は最初は人それぞれの感覚の問題と思ってましたが改めて考えてみると嫌煙権やアレルギーの問題などは一部の苦痛を発している人の声にもっと早く耳を傾けるべき事柄であったでしょう。ばか詰が世に出始めてからスカシ詰を無効にしたのは20年以上後でしたがそれまでのモヤモヤが一気にスッキリしました。

推理将棋も10数年たちましたのでこれを機会に早めのルール整備をするのに越したことはないと思います。」

■担当は、「ひとつの駒」と言われると、成ったら別の駒だと思ってしまうのですが、物理的にひとつの駒の表裏は無視するというのが推理将棋での使われ方のようです。その駒が取られたとしても同種の駒が持駒に無くて区別できる場合は相手がその駒を打っても「ひとつの駒」の継続状態と見做す場合もあった記憶があります。詰パラでは時々ルール説明に誌面を割いていることがありますので、おもちゃ箱の推理将棋でも機会があればルール掲載が必要かもしれませんね。現担当だけの独断ではまずいので過去の担当者の意見も聞く必要がありそうです。

べべ&ぺぺさん「☆さっぱり、わかりません。解説が楽しみです。」

■これまでの担当者の解説に比べて、私の場合にはクドクド長いので読みにくいかもかもしれません。

諏訪冬葉さん「結論：今月はすべて予想が外れた」

■初級は予想通りにならないと客寄せにはなりませんよね。正解者数が一番少なかったのが初級とは驚きでした。

\*\*\*\*\*

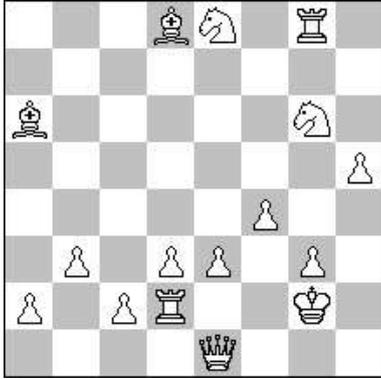
推理将棋第127回出題全解答者： 15名  
ミニベロさん ほっとさん はなさかしろうさん  
NAOさん 緑衾さん RINTAROさん  
S.Kimuraさん たくぼんさん 波多野賢太郎さん  
山下誠さん 飯山修さん DJカートンさん  
べべ&ぺぺさん 諏訪冬葉さん 原岡望さん

\*\*\*\*\*

# レトロプロブレム入門(6)

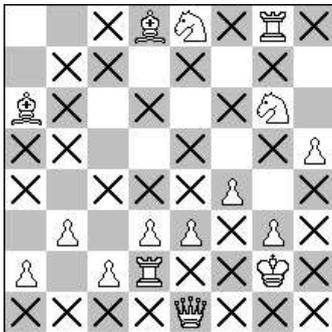
高坂 研

(17) Filip S. Bondarenko  
(Rex Multiplex 20, 1987?)



どの駒も取られることがないように、黒駒を 16 枚追加せよ(16+0)

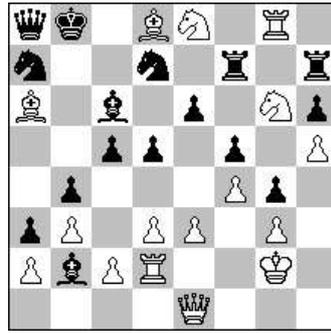
条件より、黒駒は白の利きには置けません。では、黒駒を置けない場所に×をつけてみましょう。



すると、黒駒を置ける場所はたった 17ヶ所しかないことが分かります。また、駒取りがないことから黒 P は白 P とすれ違ふことはなく、全ての筋に一枚ずつある筈ですね。後は簡単な試行錯誤で、正解図が得られます。

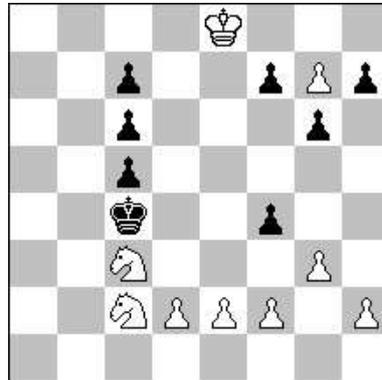


(solution)



当然のことながら、将棋でも同じパズルを作ることができます。誰かやってみませんか？

(18) Luigi Ceriani  
(Chess Amateur 1929, HM.)



白 B を 1 枚加えて、#1 にせよ(9+8)  
b/c)全ての配置を 1 筋/2 筋左にずらしてから、白 B を 1 枚加えて#1 にせよ

まず、なくなった駒の確認から。白は QRRBBPP の 7 枚で、黒は QRRBB SSP の 8 枚。また、白側の駒取りは Pg7 による 4 枚で、黒側の駒取りは Pc5,c6, f4 による 3 枚です。

a)は、b1 に白 B を追加して 1.Ba2#ですね。g8 に B を追加した場合、この B は成駒ということになりますが、白側の駒取りが多過ぎて illegal です。

では b)はどうでしょうか。今度は h 筋の白 P を利用すれば、f8 に B を追加しても legal position になりますね。従って、作意は 1.Bxe7#となります。

c)の場合は、黒 P による駒取りが 6 枚となり、これで黒側の駒取りは尽きています。従って、白 B を c1 以外に追加すると黒の駒取りが多過ぎて illegal。作意は 1.b3#と

なります。

作者の L.Ceriani はレトロ界の巨人。その創作力は、本作からも十分に窺い知ることができます。

(19) Henry Anthony Adamson (The Problemist Fairy Chess Supplement 1932)



#2 (11+12)

まずはなくなった駒を調べておきましょう。白が BPPPP の 5 枚で、黒は BSSP の 4 枚ですね。白の駒取りは b 筋の P によるものと黒 Bf8 の 2 枚。黒の駒取りは b 筋の P によるものと Pe6 による 2 枚が判明しています。

さて、ここで黒の castling が可能だと仮定します。現在白番ですから、直前の手は黒によるものですが、それは何でしょうか？

黒は castling 可能と仮定したのですから、直前の着手は Pc6xb5, Pd7xe6, Pf7xe6 のいずれかですね。そして Pc6xb5 及び Pd7xe6 なら Ba4 が、Pf7xe6 なら Ra7 がそれぞれ成駒であることが判明します。

例えば Pd7xe6 の場合、Bc8 に加え黒 Q も b8-d8 のいずれかで取られています。従って b 筋の白 P は黒 S を取ったことになり、これで白の駒取りは尽きています。つまり、白のなくなった P はどれも成ってはいないのです。

一方、f 筋の黒 P は f1 で B に成っていますが、白 K にチェックをかけずに成ろうとすると Pg2xf1=B とするしかありませんね。ところが白のなくなった駒は黒 B と P ですから、これは不可能です。(∵ f1 で取るべき白駒がない) よって白 K は不動ではあり得ないので、白の castling は不可能であることが分かります。Pf7xe6 の場合もほぼ同様の推論により、同じ結論が得られます。

ちなみに、Pc6xb5 という逆算は、「黒の

0-0-0 が可能」という条件下では illegal です。(白が成駒を 2 枚発生させる必要がある為。詳細は各自確認して下さい)

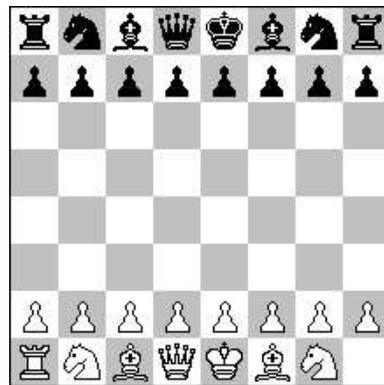
以上より「黒が castling 可能ならば白は castling 不可能」ということが証明できました。この対偶を取れば「白が castling 可能ならば黒は castling 不可能」という命題も真であることが分かります。つまり、この局面は白黒どちらか一方にしか castling の権利がないのです！(こういう状況を **mutually exclusive castling** と呼びます)そこで作意は 1.0-0!! Kd8 2.Rf8# となります。

白が先に castling してしまえば、黒の castling の権利が消滅してしまう訳ですね。

(勿論、1.Rf1??だと 1...0-0-0!で逃れです)

本作はこの筋の一号局。しかしどうしたことか、Dawson はこの投稿作を 25 年も放置しておいたそうです。(その為に、発表時期は Havel に先を越されてしまいました)何となく、Abel と Cauchy の確執を思い出しますね。

(20) Thomas Rayner Dawson (The Chess Amateur 02/1927)



現在黒番である。黒が必ず指している手は何か？(15+16)

動いた可能性のある駒は R と S のみ。双方ともプロモーションはありませんから、白の 2 枚の S は合わせて偶数手動いていることが分かりますね。又、白 Ra1 もやはり偶数手動いていますから、白の着手の総計はこの時点で偶数です。同様に考えると、黒もやはり R と S の着手の合計は偶数です。このままだと現在白番となりますから、白はなくなった Rh1 が奇数手着手していることとなりますね。

つまり、白 Rh1 は g1 で取られたという

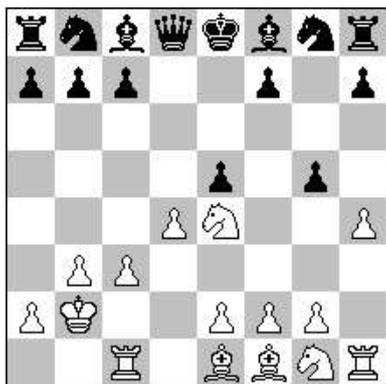
ことが証明できました。従って、黒が必ず指している手は Sh3xRg1 及び Sg1-h3 ということになります。

ちなみに、オリジナルの問題文は「黒駒が必ずいたことがある 18 枰を指摘せよ」だったようです。一瞬「え、そんなにあるの」と思いますよね。Dawson も人が悪い(笑)。

本作は parity の問題としてはほぼ原理図ですが、こういった数学的構造をチェスの中に探そうとする試みの延長線上に tempo move というテーマが姿を現すのは、殆ど必然でしょう。では、将棋盤にこういう parity を見出すことは可能なのでしょうか？みなさんも考えてみて下さいな。

-----  
では、今月の出題です。

(21) 橋本 哲  
(Problemesis 13 02/2000)



Proof Game in 11.5 moves (15+15)

(22) Michel Caillaud  
(StrateGems 1998, 3<sup>rd</sup> Prize)



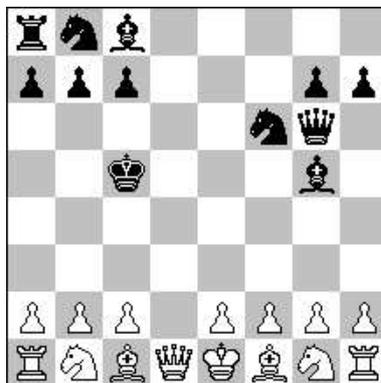
Proof Game in 11.0 moves (15+15)  
b/c) Pd7→d6/d5

(23) Gianni Donati  
(Thema Danicum 97 01/2000)



Proof Game in 10.0 moves (15+15)

(24) Mark Kirtley, Michel Caillaud  
(Die Schwalbe 178 08/1999)



Proof Game in 9.0 moves (15+12)  
2sols.

「第 52 回神無一族の氾濫」(お題は「ルールの回避」) に応募して落選した作品群です。

<余談>

「第 5 回 神無太郎の氾濫 解答編」の余談で触れた「駒の入れ替えパズル」ですが、下記にまとめてあります。興味のある方はどうぞ。

<http://cavesfairy.g1.xrea.com/pvt/exch/>

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【マドラシ】

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。ただし、玉は除く。

[補足]

- ・玉にもこの規則を適用する場合は「Kマドラシ」と表す。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。
- ・利きが消えるかどうかは「本来の利き」に入るかどうかだけで判断する。例えば A と B が互いに利きを消していて、新たな C がその本来の利きに入っても、利きは消える。「すでに AB の利きが消えているから C の利きは消えない」とは解釈しない。

<問題>

【r1-1】

マドラシ協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								科	王	一
										二
								龍		三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

14 龍 13 角 同龍 12 角 22 角 まで 5 手

詰上り

										9
										8
										7
										6
										5
										4
										3
										2
										1
								科	王	一
								角	王	二
									龍	三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

たくぼん

r1-4 との対比が面白いです。

【r1-2】

マドラシ協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										9
										8
										7
										6
										5
									金	四
									王	五
									香	六
										七
										八
										九

持駒 香

19 香 18 金 同香 17 金 15 金 まで 5 手

詰上り

										9
										8
										7
										6
										5
									金	四
									王	五
									香	六
									香	七
										八
										九

持駒 なし

たくぼん

持駒香の替わりに 28 龍でもいいかと思ったら飛合があるんですね。

※28 龍はもともと考えていなかったかも。

【r1-3】

マドラシ協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
					銀	銀	王		五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

19 香 18 銀 同香 17 銀 16 銀 まで 5手

詰上り

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
					銀	銀	王		五
							銀		六
							香		七
									八
									九

持駒 なし

たくぼん

最終手 26 銀がダメなのがちょっと粋。

【r1-4】

マドラシ協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								科	王	一
								科		二
								龍		三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

14 龍 13 桂打 同龍 12 桂 23 桂 まで 5手

詰上り

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									科	王	一
									科	科	二
									桂	龍	三
											四
											五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

たくぼん

単なる協力詰にすると7種合の7解(笑)マドラシにすることで見事な唯一解ですね

占魚亭

4作とも手順だけ見るとノーマル協力詰にしか見えませんね。

※確かに。まったく気づいていませんでした。

「マドラシ駒不足の定理」を適用していることがよく分かるように各題詰上り図を入れました。

たくぼん

これくらいの入門編はいいですね。

※やりたいことがどれだけ表現できているかということばかり気にしていて、難易度はあまり意識したことがないんです。

入門企画も真面目に考えてみますかね。でも、普段から意識していないので、やっぱり無理ですかね。

<余談その2>

コロナは微妙な状況ですね。9月の詰将棋全国大会の開催が気になるころですが、そろそろ確定の時期でしょうか。リモートでという手もありそうですが、今から調整して準備というのでは、ちょっと厳しいですかね。何らかの形で開催されることを期待しています。



<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

【スタイルメイト】

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

【中立駒】(n駒)

どちらの手番でも動かせる駒。「WFP 作品展登場ルールのまとめ」(↓)も参照してください。  
<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule119.pdf>

※出題作の後手持駒はすべて中立駒です。

【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

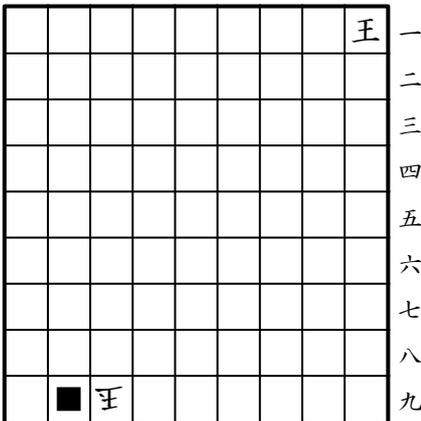
[補足]

駒を打ったときは動かない。

<問題>

【6-1】

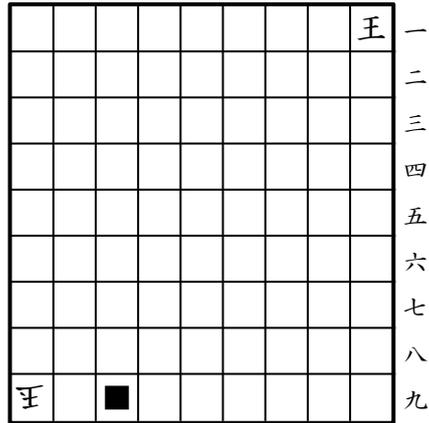
協力自玉スタイルメイト6手  
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n金

【6-2】

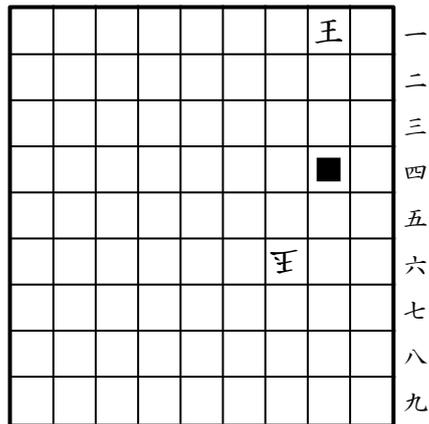
協力自玉スタイルメイト6手  
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n金

【6-3】 ツイン a)

協力自玉スタイルメイト6手  
 9 8 7 6 5 4 3 2 1

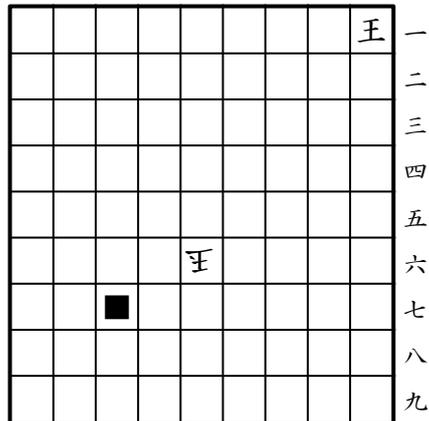


持駒 n銀

【6-4】 ツイン b) 24 I → 28 I

【6-5】

協力自玉スタイルメイト6手  
 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 n飛

# 続・やさしい双裸玉 Imitator【蔵出し編】

占魚亭

☆蔵出しの後編。前回同様に解答募集はしませんが、コメントがありましたら [sengyotei@gmail.com](mailto:sengyotei@gmail.com) へどうぞ(7月15日まで)。

—ルール—

【協力自玉詰】 先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【Imitator(■またはI)】 着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

練習問題

## 協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
								王	五
									六
							王	■	七
									八
									九

持駒 金

※■ : Imitator

【手順】

27 金、19 飛、15 王[I17]、27 玉[I16]、16 王[I17]、36 玉[I26]まで6手。

☆頭2手が分かれば後はカンタン。壁駒で線駒を出す定番の筋&詰み形なので、練習問題にしました。

2作とも易しいですが、ヒントを出します。

第1問「壁駒打ち1回。金を取って詰めます」

第2問「壁駒打ち2回。銀は消えません」

第1問

## 協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
									四
							王		五
								■	六
									七
									八
									九

持駒 金

※■ : Imitator

第2問

## 協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
								王	三
								■	四
									五
							王		六
									七
									八
									九

持駒 銀

※■ : Imitator

## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

### 2020年7月10日(水)

#### 推理将棋第 1 2 9 回出題

推理将棋 3 題

### 2020年7月15日(月)

#### Fairy of the Forest # 63

協力詰 5 題

### 2020年8月15日(土)

#### 第 122 回 WFP 作品展

フェアリー作品 10 題

## 作品募集一覧

### 第 5 3 回神無一族の氾濫

作品要件

「7 にちなんだ作品」

募集締切

2020 年 10 月 18 日 (日)

募集作品数

4 + 1 (協力詰枠)

送り先

神無七郎 ([k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com))

備考

1 人何作でも投稿可。採否は 10 月 25 日までに通知します。

※詳細は P8 をご覧ください

神無一族の氾濫に選題されるのはフェアリストにとっては一つのステータスと思っています。課題もなかなか手ごわいものが多いし、ライバルも多いですからね。選題されると、全解答者の短評と正誤結果が直ぐに送られてくるのも嬉しい。まだ投稿されていない作家の皆さん恐れずチャレンジしてみたいかがでしょうか？

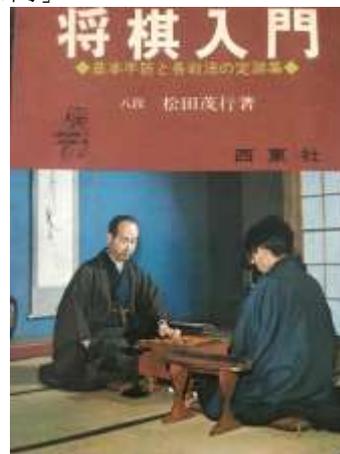
私は課題を見て、77 手、777 手の協力詰というのが浮かびました。777 手は即採用でしょうが、出来る気がしませんね (笑)

## 【あとがき】

コロナの影響で、家で過ごす事が多くなって部屋の片付けをしていたら、長い間、行方不明になっていた詰工房作品集「夢銀河」が出てきました。パラパラ捲って読んでたら巻末に Guten Tag さんの文中に、詰将棋との出会いのきっかけが「松田茂行八段の本」と書かれていました。これで思い出したのですが、私のきっかけも、この本でした。中に何ページも使っているいろいろなマニアックな詰将棋が紹介されていました。

中には、北原義治さんの双裸玉 35 手 (詰方 91 玉、受方 21 玉、持駒: 飛角金 2、詰パラ 1964 年 5 月) なんて載っていてそのマニアック度も分かるというもの。

### 「将棋入門」



私たちの時代はネットがありませんでしたから、書籍がきっかけという人が多いでしょう。皆さんのきっかけの本はなんでしょうか？

たくぼん

2020 年 第 144 号

## Web Fairy Paradise

非売品

令和二年六月号

令和二年六月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 [takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)